

第7章

「みらいの地球」を守る

～気候変動への緩和策～

第7章 「みらいの地球」を守る～気候変動への緩和策～

1. 温室効果ガスの排出量の目標を改定します

世界各国が、2018（平成 30）年の IPCC1.5°C特別報告書を受けて、パリ協定の目標「世界の平均気温の上昇を産業革命以前の水準から 1.5°C以内の上昇に抑える」を実現するための努力を強化しました。

この流れを受け、日本も 2020（令和 2）年 10 月に、2050（令和 32）年までに温室効果ガスの排出を吸収分と差し引きしてゼロにする「2050 年カーボンニュートラル」を表明しました。さらに、中期目標として 2030（令和 12）年までに、2013（平成 25）年度の温室効果ガス排出量から 46%削減することを表明しています。

この世界と日本の動きを受けて、「第 2 次エコタウンえどがわ推進計画」で定めた区の温室効果ガス排出量の削減目標を次のように改定します。

現行目標

温室効果ガス排出量の削減目標(2013(平成 25)年度比)

- ・2030(令和 12)年度までに 40%削減
(第 2 次エコタウンえどがわ推進計画目標値)

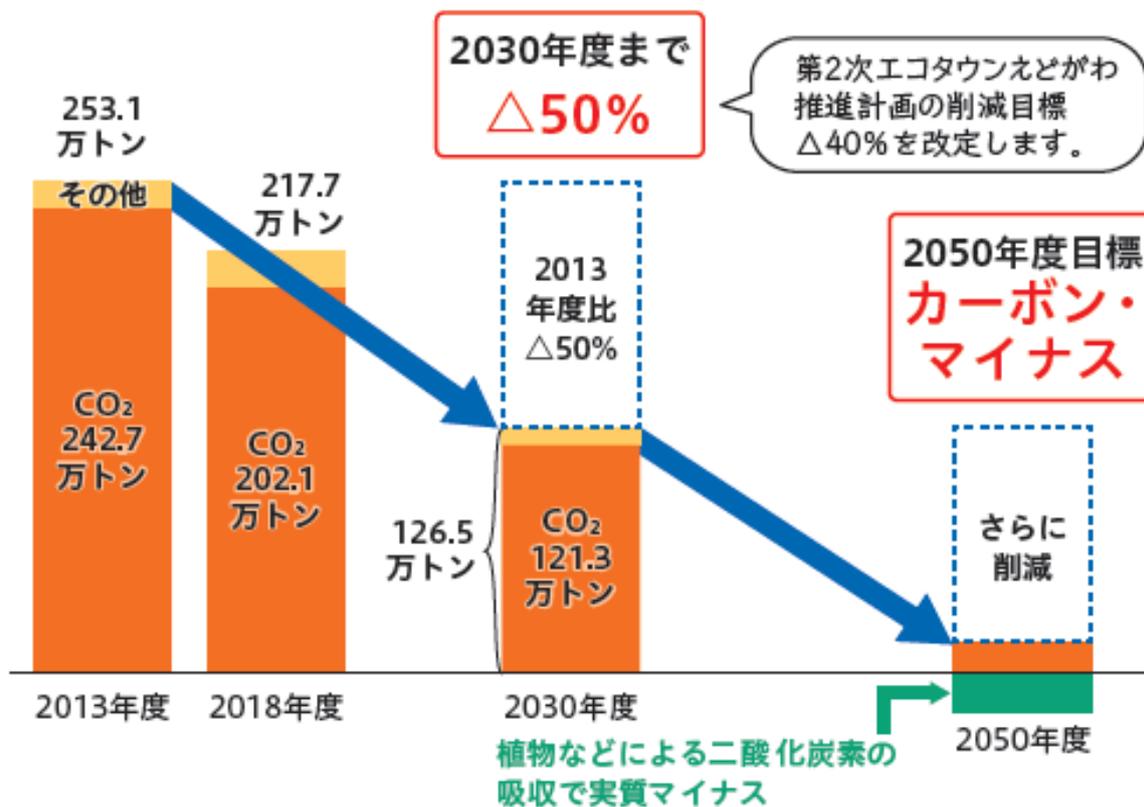


新たな目標

温室効果ガス排出量の削減目標(2013(平成 25)年度比)

- ・2030(令和 12)年度までに **50%削減**
- ・2050(令和 32)年度 **カーボン・マイナス**

2050年度までの温室効果ガス排出量の削減イメージ



江戸川区は、温室効果ガスの排出を森林等の吸収分と差し引きしてゼロにする「カーボンニュートラル」のさらに上を目指し、温室効果ガスの排出量を上回る吸収量を達成し、2050年度「カーボン・マイナス」を目標にします。

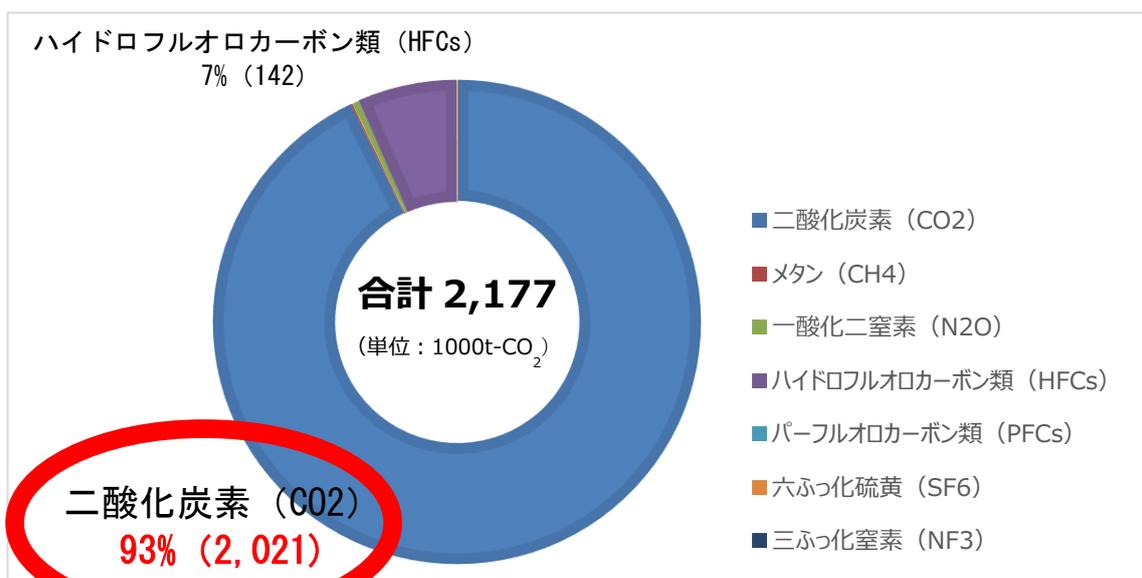
目指せ🌍カーボン・マイナス！

2. オールえどがわで取り組む温室効果ガスの排出削減

区の温室効果ガス排出量は、技術革新や人口減少により、今後もゆるやかに減っていくと見込まれています。しかし、区の新たな目標の「2030（令和12）年度に50%の排出削減」（2013（平成25）年度比）を実現するためには更なる対策が必要です。

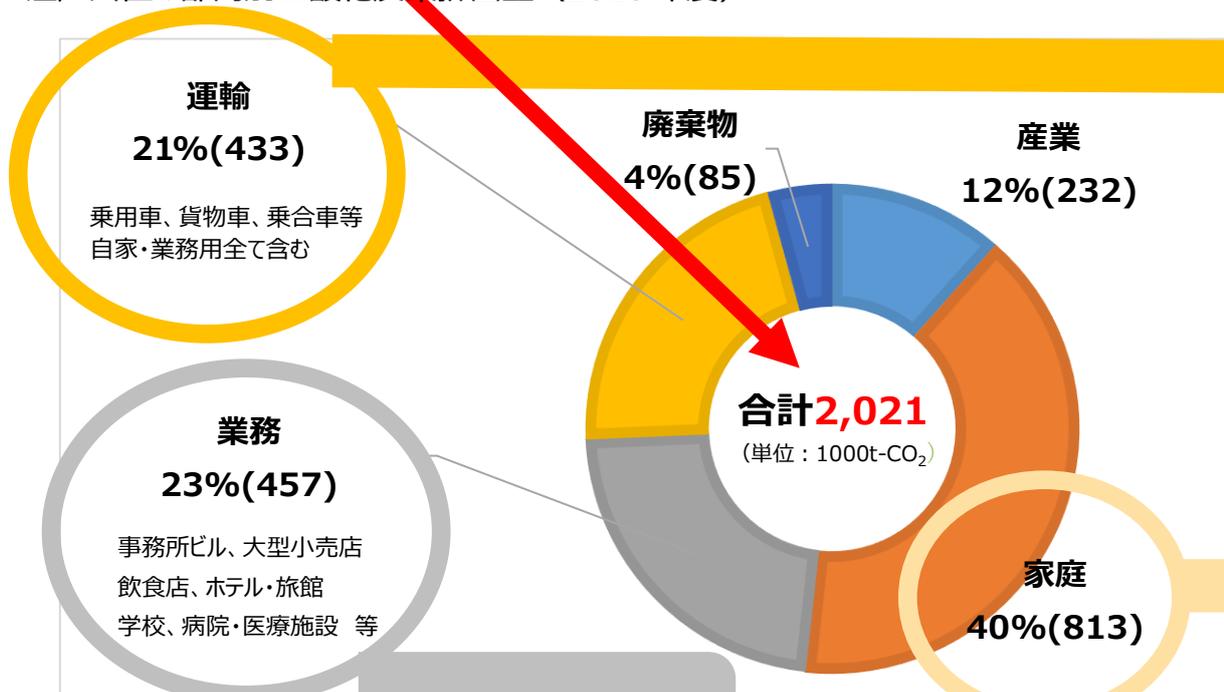
2018（平成30）年度に排出された温室効果ガス排出量の種類別の割合は下図のとおりです。

江戸川区の温室効果ガス種類別の排出量割合（2018年度）



※ 各温室効果ガスの説明は、資料編をご覧ください。

江戸川区の部門別二酸化炭素排出量（2018年度）



※ 端数を四捨五入しているため、合計値やパーセンテージ等が合わない場合があります。

目指せ  カーボン・マイナス！



スイソマンと一緒に

区民・事業者みんな

Let's 省エネ！

区民のみなさんの
取組

P70~ 1日 1.3 キロダイエット！
(kg)

・区民一人あたり、1日 1.3kg の二酸化炭素排出量の削減を目指します

事業者のみなさんの
取組

P86~  1㎡あたり
ヨンロク
目指せ！年間 46 キロカット！ (ヨンロクカット)
(kg)

・各事業所において、年間 46kg (1㎡あたり) の二酸化炭素排出量の削減を目指します

区民・事業者
のみなさん共通の取組

P100~
1日 1.9 キロ減！車の移動をへらそう！
(kg)

・移動による二酸化炭素の排出を1日 1.9 kg削減するためのエコな移動を推奨します

区内の二酸化炭素排出量（2018年度）は、202万1千トンです。その内訳として、家庭（約4割）、業務（約2割）、運輸（約2割）で約8割を占めています。この3つの分野において二酸化炭素排出量を削減していくことが重要となります。

そのため、家庭、業務、運輸のそれぞれの部門において、区民・事業者のみなさんの協力を得ながら、二酸化炭素の排出量を削減していきます。

3. 区民のみなさんの取組

区民のみなさんの取組

家庭
部門

目指せ 🌍 カーボン・マイナス！

1日1.3キロダイエット！

(kg)

の巻

区の人口は約 69 万人なんだ。

2018 年度は区民一人が 1 日あたり 3.2kg の二酸化炭素を出していたよ。



年度	2013 年度 基準年度	2018 年度 実績	2030 年度 目標
家庭部門の 二酸化炭素排出量	97 万トン	81 万 3 千トン	48 万 5 千トン
区民一人あたりの 二酸化炭素排出量 (年間)	1.4 トン	1.2 トン	0.7 トン
区民一人あたりの 二酸化炭素排出量 (1 日あたり)	3.9kg	3.2kg	1.9kg

一般家庭からの二酸化炭素排出量削減目標

2018 年度

81 万 3 千トン

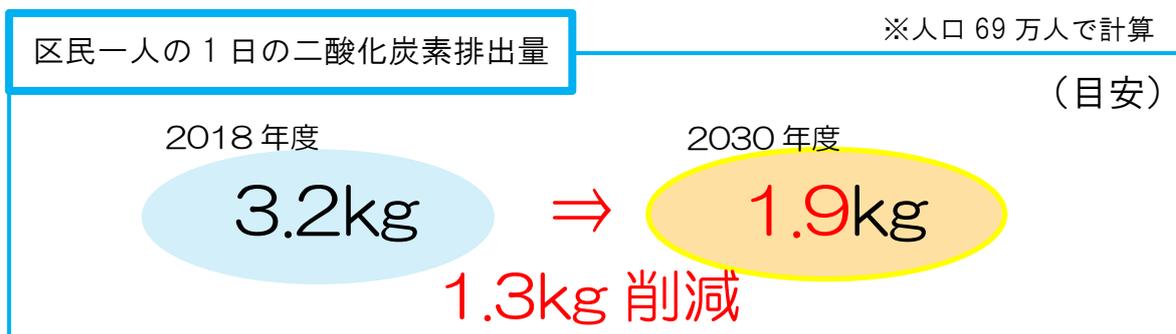
⇒

2030 年度

48 万 5 千トン

32 万 8 千トン削減 (12 年間)

一般家庭からの排出量を減らすには・・・

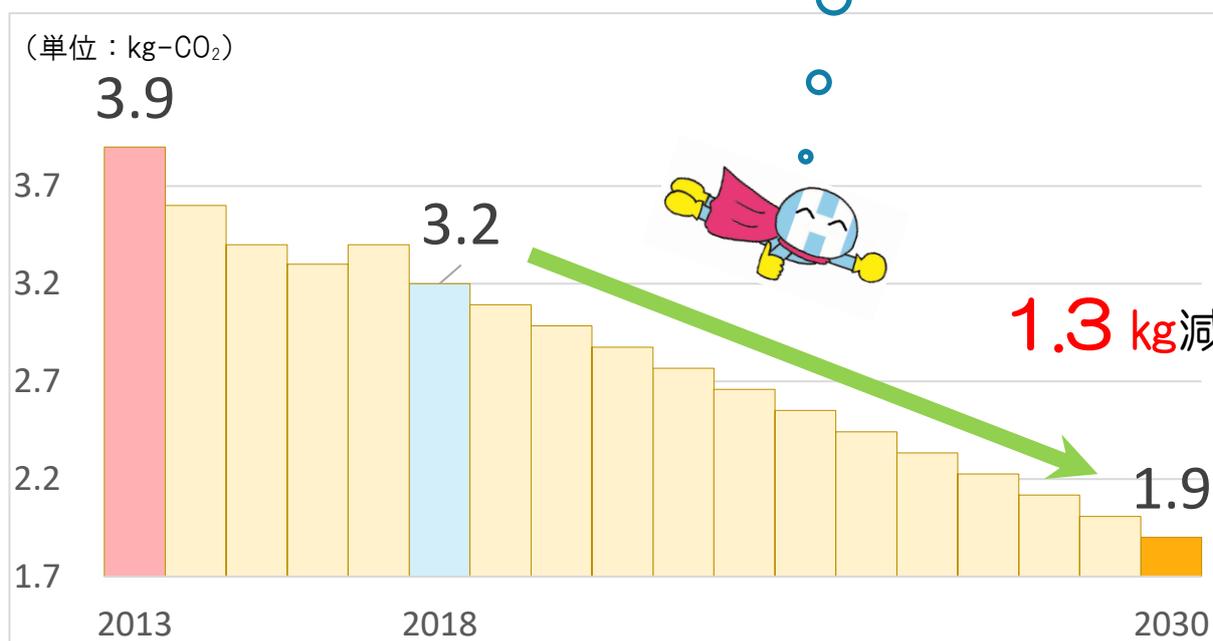


1日1.3キロダイエット!

一人ひとりが「自分ごと」と考えて、
省エネ行動をすることが大切です。



僕も1日1.3キロへらすように
省エネ行動がんばるよ☆





1日1.3キロダイエットプラン (kg)

(目安)

省エネ行動	1日あたりのCO ₂ 削減量(g)
テレビをつけている時間を1日1時間減らす	22.5
テレビは明るすぎないように設定する	36.4
パソコンを使う時間を1日1時間減らす(ノートパソコン)	7.4
暖房時の室温は20℃を目安にする(エアコン)	153.8
暖房器具の使用時間を1日1時間減らす(エアコン)	117.8
フィルターを小まめに清掃する(月2回程度)	42.7
部屋を片付けてから掃除機をかける	7.4
モップや雑巾を使って掃除機をかける時間を減らす	21.9
炎が鍋底からはみ出ないようにする	14.2
冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置する	60.5
冷蔵庫は季節に合わせて設定温度を調節する	82.7
冷蔵庫にはものを詰め込まない	58.6
炊飯器の長時間保温はせず、使わないときはプラグを抜く	61.4
食器洗いのお湯の量を減らす	57.5
電気ポットの長時間保温はしない	144.1
小まめにシャワーを止める	84.1
お風呂は間隔をあけずに続けて入る	227.1
使わないときは、電気便座のふたを閉める	46.8
電気便座の設定温度を低くする	35.3
洗濯物はまとめて洗う	38.6
合計	1,320.8

※CO₂排出量 1.3 キロ削減を目指す一例です

できることからはじめよう！

区民一丸となって省エネ活動を継続し、2050年度カーボン・マイナスを目指していきましょう。

僕のダイエットプランは、ひとつの例なんだよ。
みんなそれぞれ、できることがあるはずだから、
自分のダイエットプランを作ってみよう！



スイソマンの1.3キロダイエットプラン
以外にも、たくさんの**省エネ活動**があるよ！
この後のページで紹介するから、
できることを探してやってみてね！

一人ひとりの思いやりが
みんなでやろう Let's 省エネ！
みんなの未来を救う

Let's 省エネ！



◎知ることからはじめよう

行動するためには、まず地球温暖化問題について知ることが大切です。
自ら学び、理解することで、主体的な行動の実践につながります。

- ・地球温暖化やエネルギーに関するニュース等に関心を持って聞く・見る・読む。
- ・地球温暖化に関するイベントやキャンペーン等に参加する。
- ・家庭で使うエネルギーの種類や料金等を把握する。

◎身のまわりでできること

温室効果ガス削減のために、できることから少しずつ行動を実践することが大切です。一人ひとりの行動を積み重ねることで、大きな削減につながります。

リビングでの取組

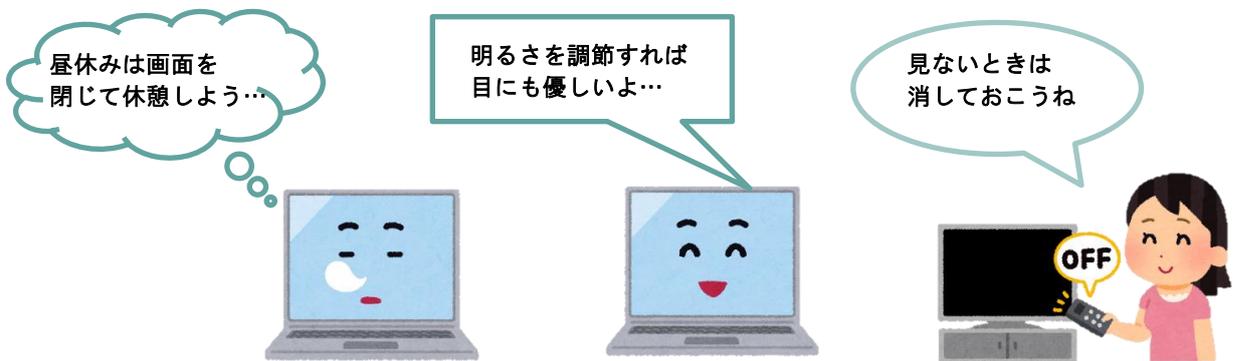
冷房・暖房などの取組	二酸化炭素削減量	
	年間 (kg)	1日あたり (g)
冷房時の室温は28℃を目安にする	14.8	132.1
冷房（エアコン）の使用時間を1日1時間減らす	9.2	82.1
フィルターを小まめに清掃する（月2回程度）	15.6	42.7
暖房時の室温は20℃を目安にする（エアコン）	26.0	153.8
暖房時の室温は20℃を目安にする（ガスファンヒーター）	17.8	105.3
暖房時の室温は20℃を目安にする（石油ファンヒーター）	25.4	150.3
暖房器具の使用時間を1日1時間減らす（エアコン）	19.9	117.8
暖房器具の使用時間を1日1時間減らす（ガスファンヒーター）	27.6	163.3
暖房器具の使用時間を1日1時間減らす（石油ファンヒーター）	39.6	234.3
電気カーペットは広さにあった大きさにする	44.0	260.4
電気カーペットの設定温度は「強」から「中」にする	91.0	538.5
こたつ布団に上掛けとこたつ敷布団をあわせて使う	15.9	94.1
こたつの設定温度を低めにする	24.0	142.0

※冷暖房運転期間 暖房期間：5.5ヶ月（10月28日～4月14日・169日間）
冷房期間：3.6ヶ月（6月2日～9月21日・112日間）



環境省は冷房時の室温を28℃で快適に過ごせる軽装や取組を促すライフスタイル「COOLBIZ」を推進しています。「28℃」は目安です。冷房時の外気温や湿度、建物の状況、体調等を考慮しながら、無理のない範囲で冷やし過ぎない室温管理の取組をお願いします。

テレビ・パソコンなどの取組	二酸化炭素削減量	
	年間 (kg)	1日あたり (g)
テレビをつけている時間を1日1時間減らす	8.2	22.5
テレビは明るすぎないように設定する	13.3	36.4
パソコンを使う時間を1日1時間減らす（デスクトップ）	15.5	42.5
パソコンを使う時間を1日1時間減らす（ノートパソコン）	2.7	7.4
パソコン（デスクトップ）の電源オプションの見直しをする	6.2	17.0
パソコン（ノートパソコン）の電源オプションの見直しをする	0.7	1.9



照明・掃除の取組	二酸化炭素削減量	
	年間 (kg)	1日あたり (g)
照明の使用時間を1日1時間減らす（白熱電球）	9.6	26.3
照明の使用時間を1日1時間減らす（蛍光灯）	2.2	6.0
照明の使用時間を1日1時間減らす（LED※電球）	1.4	3.8
白熱電球をLED電球に交換する	45.0	123.3
部屋を片付けてから掃除機をかける	2.7	7.4
モップや雑巾を使って掃除機をかける時間を減らす	8.0	21.9



キッチンでの取組

冷蔵庫の取組	二酸化炭素削減量	
	年間 (kg)	1日あたり (g)
冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置する	22.1	60.5
冷蔵庫は季節に合わせて設定温度を調節する	30.2	82.7
冷蔵庫にはものを詰め込まない	21.4	58.6
冷蔵庫は無駄な開閉をしない	5.1	14.0
冷蔵庫を開けている時間を短くする	3.0	8.2

冷蔵庫も小まめに整理整頓♪



季節に合わせて温度調節



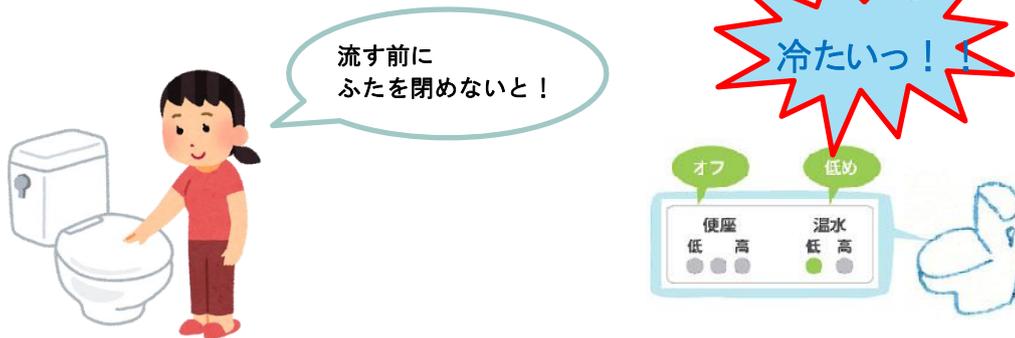
調理・食器洗いの取組	二酸化炭素削減量	
	年間 (kg)	1日あたり (g)
炎が鍋底からはみ出ないようにする	5.2	14.2
野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する (葉菜(ほうれん草、キャベツ)の場合)	12.2	33.4
野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する (果菜(ブロッコリー、カボチャ)の場合)	13.0	35.6
野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する (根菜(ジャガイモ、里芋)の場合)	10.5	28.8
炊飯器の長時間保温はせず、使わないときはプラグを抜く	22.4	61.4
電気ポットの長時間保温はしない	52.6	144.1
食器を洗うときは低温に設定する	19.1	52.3
食器洗いのお湯の量を減らす	21.0	57.5

はみ出し注意!!



バス・トイレ等での取組

バス・トイレの取組	二酸化炭素削減量	
	年間 (kg)	1日あたり (g)
小まめにシャワーを止める	30.7	84.1
お風呂は間隔をあけずに続けて入る	82.9	227.1
ドライヤーの使用時間を1日1分間減らす	3.6	9.9
歯磨き中、水を流しっぱなしにしない	2.6	7.1
使わないときは、電気便座のふたを閉める	17.1	46.8
電気便座の設定温度を低くする	12.9	35.3
温水洗浄便座の洗浄温水の温度を低くする	6.7	18.4



冬のオフは気をつけて！

洗濯時の取組	二酸化炭素削減量	
	年間 (kg)	1日あたり (g)
洗濯物はまとめて洗う	14.1	38.6
衣類乾燥機はまとめて使い、回数を減らす	20.5	56.2
衣類乾燥機は、自然乾燥と併用して使う	193.0	528.8



太陽と風で自然乾燥☆

その他の取組

外出先での取組	二酸化炭素削減量	
	年間 (kg)	1日あたり (g)
ペットボトルの代わりにマイボトルを持ち歩く	2.8	7.7
割りばしなどの使い捨てのものはもらわない、使わない	0.9	2.5

買い物での取組	効果
過剰な包装を断る	紙資源の使用を抑制
宅配便を1回で受け取る	再配達によるCO ₂ を削減



マイ箸



マイバッグ



マイボトル

◎買うものをかえる

食料品や日用品などの普段の買い物から、家電などの大きな買い物まで、少しの心がけで、温室効果ガス排出量を削減することができます。

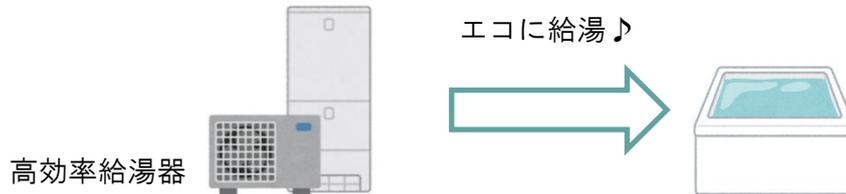
買い物での取組	年間二酸化炭素削減量
家電製品は、省エネルギー型等の環境に優しい製品に買い替える	エアコン 64 kg 冷蔵庫 107~131 kg テレビ 28kg
環境を意識した買い物（グリーン購入）をする	商品の生産に伴うエネルギー消費量や環境への負荷を抑制
季節に合った旬の食材を買う	ビニールハウスに使用されるエネルギーを抑制

旬の食材を買ってね



環境に優しい新製品への買い替えをしませんか？

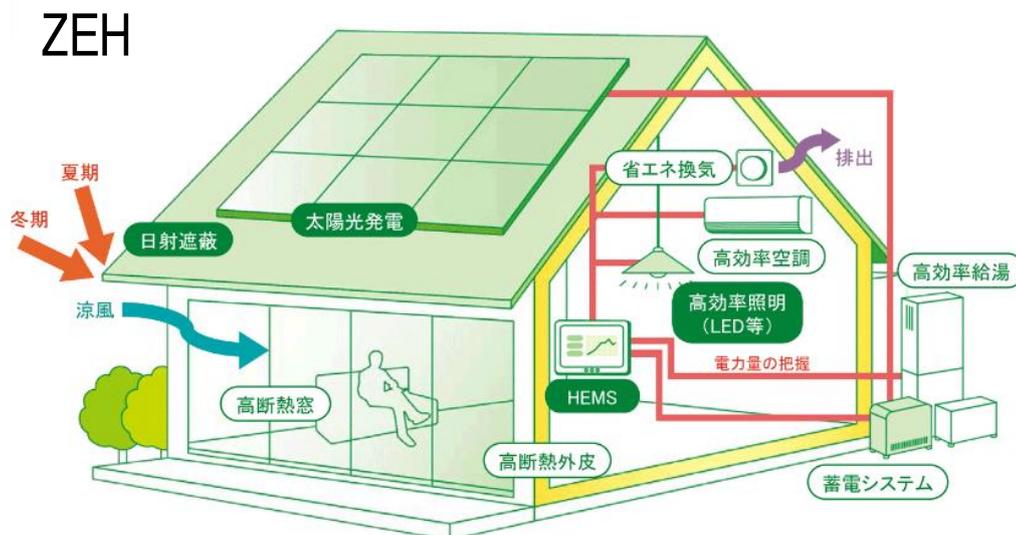
家庭での取組	年間二酸化炭素削減量
高効率給湯器 [*] を導入する	159.4 kg-CO ₂
HEMS [*] （ホームエネルギーマネジメントシステム）を導入する	130 kg-CO ₂



◎使うエネルギーを選ぶ

地球温暖化対策のためには、温室効果ガス排出量の少ないエネルギーを活用することも重要です。住宅そのものの省エネルギー化を進め、自然エネルギーを有効に活用することで、大幅な削減が可能となります。

家庭での取組	年間二酸化炭素削減量
ZEH（ネットゼロエネルギーハウス） [*] を導入する	4,900 kg-CO ₂
自然エネルギー（昼光、通風など）を活用する	照明・空調のエネルギー消費量の抑制
太陽光発電システム・太陽熱温水器を導入する	太陽光発電 1,761 kg-CO ₂ 太陽熱温水器 454 kg-CO ₂
家庭用コージェネレーション [*] システム（マイホーム発電）を導入する	1,300 kg-CO ₂



出典：資源エネルギー庁ホームページ



地球温暖化って、なあに?!
～ぼくたちは、どうすればいいの?!～

EDOGAWA 環境教育プロジェクトにおいて、小学生から学ぶことができる地球温暖化の啓発マンガを作製しました。
ぜひご覧ください。



二次元コード

家族みんなで

Let's 省エネ!

僕も出てるよ!





家庭部門では、日常生活における省エネ行動について活発な議論が行われました。

空調やごみ・リサイクルの取組をはじめ、お風呂や節電行動等、様々な行動が挙げられました。CO₂の排出は、省エネ行動だけでなく機器の更新、生活の中でのちょっとした工夫でも削減が可能です。

行動

- 今までの省エネ行動
- 計画内の省エネ行動

発見

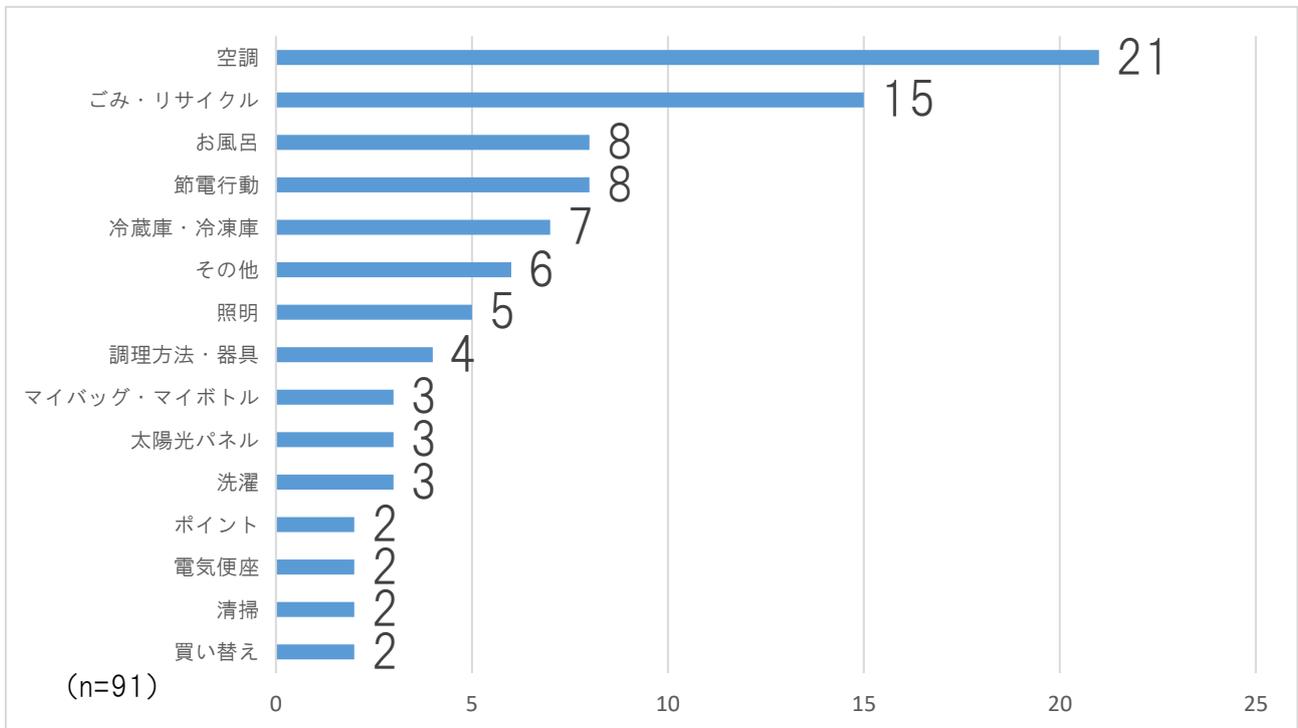
- 課題
- 利点

提案

- 区民への行動の提案
- 区への提案

家庭部門における取組の内訳

※取組事例の詳細は資料編に記載しています。



※グラフ内に記載している「n」は、「回答数」を意味する。

【集計方法】

- ① 1人5つの取組を順位をつけて投票
- ② 1位：5点 2位：4点 3位：3点
4位：2点 5位：1点
- ③ 14名の投票結果から点数を集計

参加者投票で選ばれたオススメ取組ベスト5！

- 第1位 **14点** こまめに電気を消す/家電のスイッチはこまめに切る
- 第2位 **11点** 節電ポイント制の導入
- 第3位 **9点** 電力の契約アンペアを見直す
- 第4位 **8点** 持っているものを大切にし、買いすぎない
- 第4位 **8点** 照明器具をLEDに買い替える

えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group
A

いい湯えどがわ♨️ ～家湯もね～

行動

- ・風呂の追いだし機能を極力使わない
- ・間隔を空けずに風呂に続けて入る
- ・銭湯を利用する

発見

利点

- ・最近の銭湯は共有スペースや居酒屋が併設されるなど、新たなコミュニティとなっている

課題

- ・家族の生活サイクルが合わず、間隔を空けずにお風呂に入ることが難しい

提案

区民の方へ

- ・家庭のCO₂排出量の4割は給湯です。効率の良い風呂の入り方の工夫が急務です。銭湯を普段から利用してみませんか？

区へ

- ・災害時の利用も見越した銭湯の保護と利用の促進のために、区からのクーポンの配布を提案します。

買い物改革 環境にもおサイフにも優しく！

行動

- ・トレーのない肉・魚を買う
- ・過剰包装の商品は避ける
- ・容器持参の量り売りを利用する
- ・大量購入をしない

発見

利点

- ・ごみを大幅に減らせる
- ・食品を無駄にしない
- ・冷蔵庫がすっきりする

課題

- ・スーパーでは簡易包装や量り売り商品が少ない

提案

区民の方へ

- ・江戸川区は都市農業が盛んで直売所もあり、直売所マップも用意されています。新鮮で美味しい野菜が量も多く、安い値段で手に入ります。
- ・地元野菜の購入は生産地からの輸送時に排出される二酸化炭素量の削減にもつながります。新鮮で環境にもおサイフにもやさしいこと間違いなし！

区へ

- ・駅ナカ市場や駅前マルシェの開催等も希望します。

えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group
B

「私が作った電気」で生活する

行動

- ・各家庭で電気を自給自足する

発見

利点

- ・電気料金の負担が減る

課題

- ・導入・メンテコストが発生する
- ・日当たり等の条件によって、各家庭で効果にバラツキがある
- ・導入に足踏みする

提案

区へ

- ・どうしたら私たちが自主的に変わろうと思うか動機づけが大事
- ・ポータブルの太陽光パネルの支給または補助金により導入を推奨する。
- ・ソーラーパネルの貸出により、各家庭で導入する前に使ってみてメリット・デメリットを判断できるようにする。
- ・効率的な太陽光発電が難しい住宅の分は、再エネ（風力発電等）によるオフサイト電源導入できるよう区が支援する。

節電ポイントでお得にエコ！！

行動

- ・節電ポイントがつく日常生活での小さなエコ活動を行う

発見

利点

- ・節電しようと思いはめる

課題

- ・エコは基本手間がかかる
- ・節電ポイントの仕組みが分かりにくい

提案

区へ

- ・節電ポイントの利用でモチベーションが上がる
- ・小売電気事業者を選択しやすい情報環境整備
- ・節電ポイント制度についての情報整備と公開
- ・区によるキャンペーンの開催
- ・マイナポイントとの連携

えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group
C

冷蔵品 買いこみすぎたら 冷凍庫

行動

- 【冷蔵庫】
 - ・開けている時間を短くする
 - ・物を詰め込まない
 - ・季節に合わせて設定温度を調節する
- 【冷凍庫】
 - ・食品をたくさん入れる

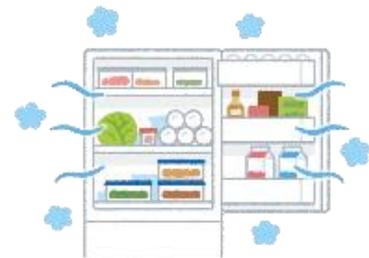
発見

- 利点
 - ・電力減少
 - ・フードロス削減
- 課題
 - ・温度調節の方法が不明
 - ・つつい買ってしまい整理できない
 - ・冷凍を使わない人やガラガラの人への対策

提案

区民の方へ

- ・多く買いすぎたら冷凍庫
- ・冷凍庫・冷蔵庫の中身を「見える化」しよう
 - （・三色食品群の保管場所を決めよう
 - ・賞味期限・消費期限の近いものをメモ
 - ・計画的な食生活を送る心がけをしよう
- ・小さい冷蔵庫に買い替え
- ・本当に食べるか食材のチェック



電力量の断捨離を考えよう

行動

- ・使わないときはコンセントを抜く（クーラー・パソコン・スマホなど）
- ・日中窓を開けてクーラーを停止
- ・照明器具をLED化
- ・二重窓の設置

発見

- 利点
 - ・電気代の削減
- 課題
 - ・二重窓がない家
 - ・普段からテレビつけっぱなし

提案

区民の方へ

- ・エコ家電に買い替える
- ・日常の電気代を時系列で把握しよう
- ・電気を使わない体験をしてみる！（2～3時間を目安に）
- ・冷気・熱気を家に持ち込まない対策として、防寒シート、グリーンカーテンを窓の近くに！
- ・テレビは節電 50%OFF で音だけ視聴



4. 事業者のみなさんの取組

事業者のみなさんの取組

業務
部門

目指せ 🌍 カーボン・マイナス！

1㎡あたり
ヨノク
目指せ！年間 46 キロカット！ (ヨノクカット)
(kg)

の巻

区内の事業所は約 1 万 6 千事業所で、総延床面積約 400 万㎡なんだ。

2018 年度は 1 ㎡あたり 114.3kg の二酸化炭素を出していたよ。



年度	2013 年度 基準年度	2018 年度 実績	2030 年度 目標
業務部門の 二酸化炭素排出量	54 万 8 千トン	45 万 7 千トン	27 万 4 千トン
1 事業所あたりの 二酸化炭素排出量 (年間)	34.3 トン	28.6 トン	17.1 トン
1 ㎡あたりの 二酸化炭素排出量	137.0 kg	114.3kg	68.5kg

各事業所からの二酸化炭素排出量削減目標

2018 年度

45 万 7 千トン

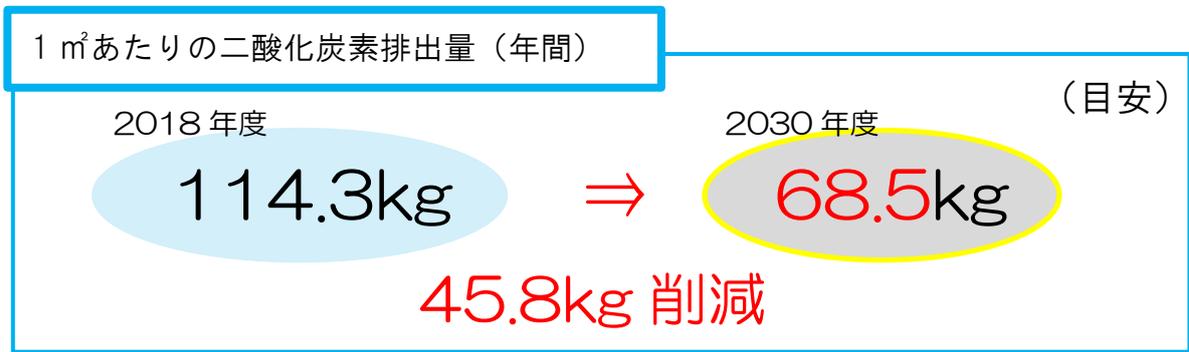
⇒

2030 年度

27 万 4 千トン

18 万 3 千トン削減 (12 年間)

事業所からの排出量を減らすには・・・

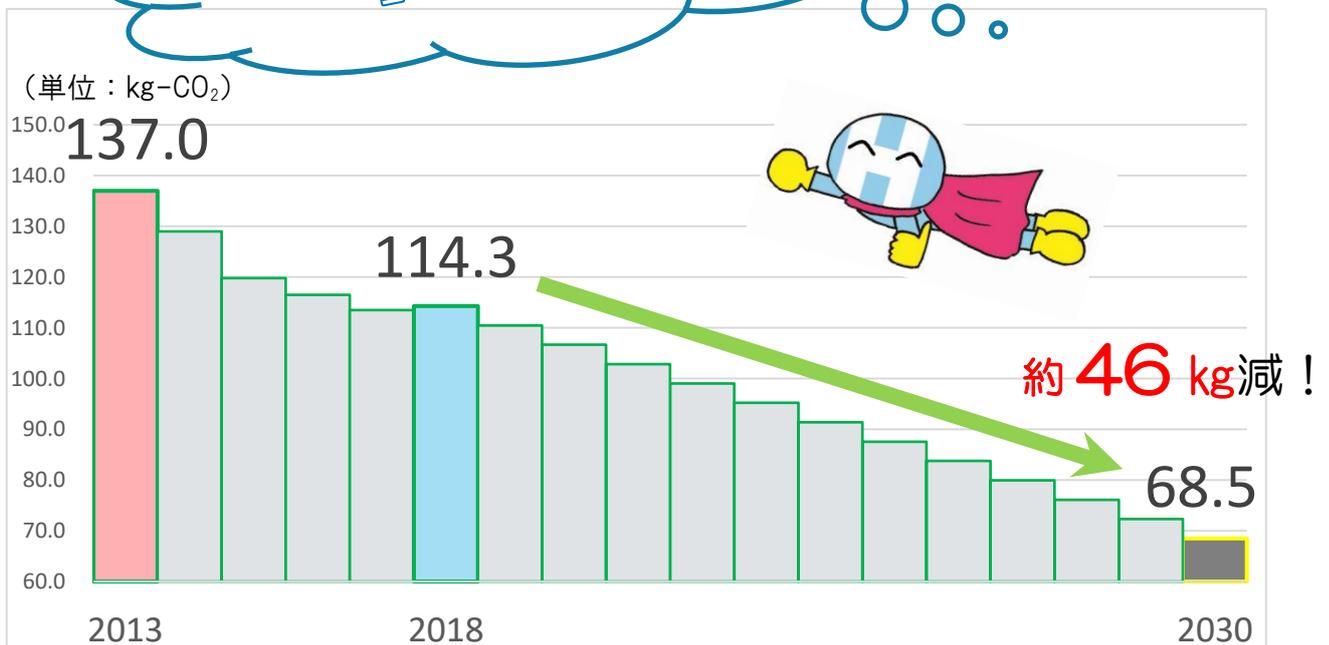


目指せ！



※ 45.8kg をわかりやすく 46kg としています。

各事業所のみなさんが「自分ごと」と考えて、
省エネ行動をすることが大切です。



各事業所からの二酸化炭素排出量を削減するために・・・

①各事業所の延床面積に応じた削減目安の考え方

江戸川区には、事務所ビルや学校、その他サービス業、他にも飲食店や病院・医療機関、ホテル等、大小様々な規模、業種の事業所があるため、二酸化炭素排出量の削減については、各事業所の延床面積によって削減の目安をかえることが望ましいです。

2030年度の目標達成に向けて、二酸化炭素排出量の削減を1㎡あたりに換算した場合、45.8kgの削減がひとつの目安となります。各事業所において、下記の計算式で二酸化炭素排出量の削減目安を把握して、取組の実施をお願いいたします。

$$\text{二酸化炭素排出量の削減目安 (kg)} = \text{事業所の延床面積 (㎡)} \times 46.0 \text{ (kg)}$$

※ 45.8kgをわかりやすく46kgとしています。

【参考】延床面積による二酸化炭素排出量の削減目安は下記のとおりです。

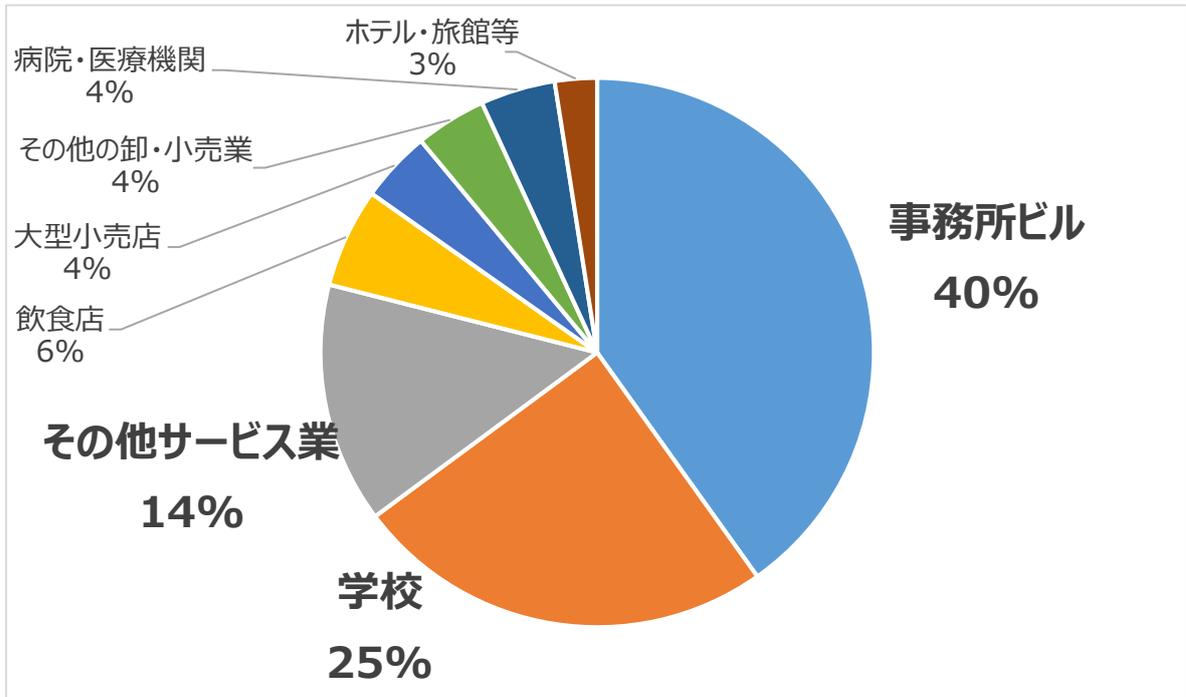
延床面積	年間二酸化炭素排出量の削減目安	月あたりの削減目安
100㎡～	4,600kg (=4.6 トン)～	約0.4トン～
200㎡～	9,200kg (=9.2 トン)～	約0.8トン～
300㎡～	13,800kg (=13.8 トン)～	約1.2トン～
500㎡～	23,000kg (=23.0 トン)～	約1.9トン～
1,000㎡～	46,000kg (=46.0 トン)～	約3.8トン～
3,000㎡～	138,000kg (=138 トン)～	約11.5トン～
5,000㎡～	230,000kg (=230 トン)～	約19.2トン～
10,000㎡～	460,000kg (=460 トン)～	約38.3トン～

業務部門における二酸化炭素排出量の達成には、大規模事業所の省エネ活動等による二酸化炭素排出量の削減が重要です。各事業所において、二酸化炭素排出量の削減目標を設定し、取組を実施していくことが、江戸川区の二酸化炭素排出量の削減につながります。

②各事業所における省エネ活動の推進

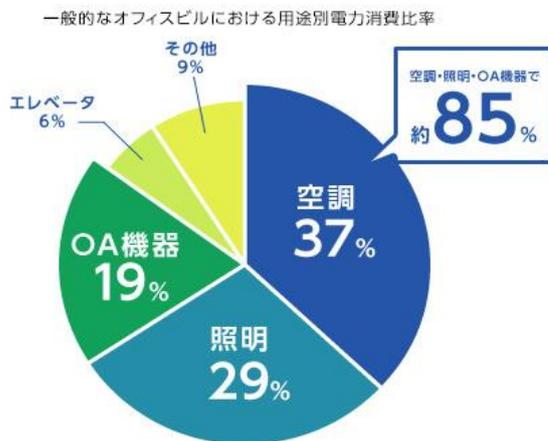
下記のグラフは業務部門における、建物用途別の延床面積の割合です。
事務所ビルが40%を占め、学校が25%、その他サービス業が14%となっています。

割合の高い事業所ビルにおける省エネ活動が重要となりますが、その他の事業においても、削減の取組が必要です。



業務部門における建物用途別延床面積の割合

オフィス系の建物では、空調の電力消費が最も多く、「空調」「照明」「OA 機器（パソコン等）」で建物の電力消費の8割以上を占めており、従業員一人ひとりの身の回りで使われている電気がほとんどとなっています。従業員の省エネ意識・省エネ行動により、電力消費を抑えることが二酸化炭素排出量の削減につながります。



「空調」「照明」「OA 機器」

少しの心がけで、
電力の消費を抑えられます。

出典:資源エネルギー庁推計

省エネルギーは、事業所などの経費削減に直接寄与するものであり、エネルギー消費の削減は、二酸化炭素排出の抑制にもつながります。

民生業務部門で 2030 年度までに 2013 年度比 50%削減をするには、多くの省エネ行動が必要となります。

事業所の省エネの着眼点は、以下のとおりです。

- ・ 無駄を排除（照明、空調、外気取り入れ等）
- ・ 快適さを保ちつつ節約（室内温度、照明、外気導入量、節水器具）
- ・ 建物、設備からのエネルギーロスの抑制
（外壁の断熱、窓の日射調整、配管の断熱）
- ・ 廃熱を回収（全熱交換器、熱回収ヒートポンプ※）
- ・ エネルギー供給会社との需給供給契約の見直し
（夜間電力、蓄熱調整、ピーク時間調整等）

事業所の省エネ行動は、
従業員のみなさんの取組以外にも、
設備や建物など、いろいろな対策が
あります。



◎何ができるかを知る

行動するためには、まず事業活動から排出される温室効果ガスの実態や、事業者が行うべき地球温暖化対策について知ることが大切です。

- ・ エネルギーの使用実態を調べる
- ・ 事業活動による地球温暖化への影響を把握する



◎省エネを極める（プロセス改善を含む）

事業活動の様々な場面で排出される温室効果ガスを削減することが必要です。

空調設備	効果
部屋の温度を夏は 28℃、冬は 20℃に調節する (クールビズ、ウォームビズで省エネ)	冷暖房のエネルギー消費量を 約 11%削減
二酸化炭素濃度を管理し、必要最小限の外気取入れを行う	エネルギー消費量(冷水熱量)を 約 10%削減
燃焼装置の空気比を適正にする	使用するエネルギーを抑制
複数設置された熱搬送ポンプは負荷に応じた運転台数に調整する	使用するエネルギーを抑制
季節により冷水出口温度の設定を変更する	エネルギー消費量を 中間期 20%、初冬 10%削減
空調機のフィルターは月に 1～2 回清掃する	使用するエネルギーを抑制
始業・終業時の空調運転時間を短縮する	使用するエネルギーを抑制



フィルターはピッカピカに☆



夏は涼しくクールビズ



冬は心も体も暖かく・・・
ウォームビズ

照明設備	効果
昼休みは消灯する	照明に使うエネルギーを抑制
小まめにスイッチをオフにする (離席時や不要な部屋での消灯)	照明に使うエネルギーを抑制
明るい窓際では昼光を利用する	照明に使うエネルギーを抑制
残業を減らす(ノー残業デーの推奨など)	照明に使うエネルギーを抑制
照度基準を設定し、適正照度に管理する	使用するエネルギーを抑制



就業前とお昼休みは電気を消灯



残業を減らして電力消費をカット

ポンプ・ファン・コンプレッサー	効果
吐出圧を下げて、電力を削減する	使用するエネルギーを抑制

プロセスの改善	効果
工程の見直しによる短縮化・連続化を進める	使用するエネルギーを抑制
高効率制御システムの導入	使用するエネルギーを抑制



高効率制御システムの導入

効率アップで省エネ推進!



上水道・下水道設備	効果
電気便座のふたを閉じる	17.1 kg-CO ₂
蛇口を小まめに締める	水の供給時に使用するエネルギーを抑制
不使用時のメーターの動きで水漏れを定期的にチェックする	水の供給時に使用するエネルギーを抑制

その他	効果
離席時はパソコンのふたを閉じる	使用するエネルギーを抑制
受電力率を100%に調節し、コストを削減する	使用するコストを抑制
オーナーとテナントの定期的な省エネ会議を実施する	省エネルギーへの意識向上
宅配ボックスを設置する	再配達によるCO ₂ を削減



離席時はパソコンのふたを閉じる



電気便座のふたを閉じる



**みんなでやろう！
2(ふた)閉め運動！**

☆席を離れるときは、**パソコンのふた**を閉めましょう

☆おトイレを出るときは、**便座のふた**を閉めましょう

小さなことからコツコツと・・・
みんなの思いが地球を救う！
Let's 省エネ！

2(ふた)閉め運動実施中！

☆席を離れるときは、**パソコンのふた**を閉めましょう

☆おトイレを出るときは、**便座のふた**を閉めましょう

小さなことからコツコツと・・・
みんなの思いが地球を救う！
Let's 省エネ！

2(ふた)閉め運動！

ぜひ事業所で実践してみてください☆

ポスター2バージョンあるよ



◎設備をかえる（建築含む）

設備・機器を含め、建物全体で省エネを図ることで、温室効果ガスの削減につなげることができます。

空調設備	効果
冷温水ポンプにインバーターを設置し流量調整をする	冷房期間のポンプ電力消費量を約50%削減
熱源装置を台数分割し部分負荷時の効率を向上する	熱源補機および2次ポンプ類を含めたエネルギー消費量を約17%削減
蒸気バルブの保温を実施する	使用するエネルギーを抑制
ガラスの断熱コート、ブラインド等により日射負荷を低減する	使用するエネルギーを抑制
高効率の空調機を導入する	使用するエネルギーを抑制
夜間電力を利用する蓄熱式空調機を導入する	使用するコストを抑制

照明設備	効果
照明をLEDに交換する	使用するエネルギーを抑制
内装を明るくして、照明効果をアップする	使用するエネルギーを抑制
照明器具の安定器をインバータータイプに変更する	使用するエネルギーを抑制

ポンプ・ファン・コンプレッサー	効果
インバーターの設置・制御で電力を削減する	使用するエネルギーを抑制

上水道・下水道設備	効果
節水コマや擬音装置の導入で節水する	水の供給時に使用するエネルギーを抑制
高効率給湯器を導入する	使用するエネルギーを抑制

その他	効果
夜間電力の活用やデマンドコントロール※を導入する	ピークの電力使用量を減らすことで基本料金を抑制
高効率変圧器に更新する	使用するエネルギーを抑制
太陽光発電や燃料電池※などの新エネルギー設備を導入する	再生可能エネルギー導入による二酸化炭素排出量の削減

建物の建設・建替・改修	効果
建物の建設などの際には、省エネルギー設備や新エネルギー設備を導入する	使用するエネルギーを抑制

◎使うエネルギーを選ぶ

地球温暖化対策のためには、温室効果ガス排出量の少ないエネルギーを活用することも重要です。

その他	効果
太陽光発電や燃料電池などの新エネルギー設備を導入する 【再掲】	再生可能エネルギー導入による二酸化炭素排出量の削減





業務部門では、「事業所・学校の取組」と「従業員・生徒の取組」という視点で話し合いが行われました。

「環境教育の重要性」や「事業所や学校が中心となって実施することが大切」という声があり、参加者のみなさんの意見も「事業所・学校への取組提案」が多く出されました。

行動

- 事業所・学校での行動
- 施設・設備等について考える

発見

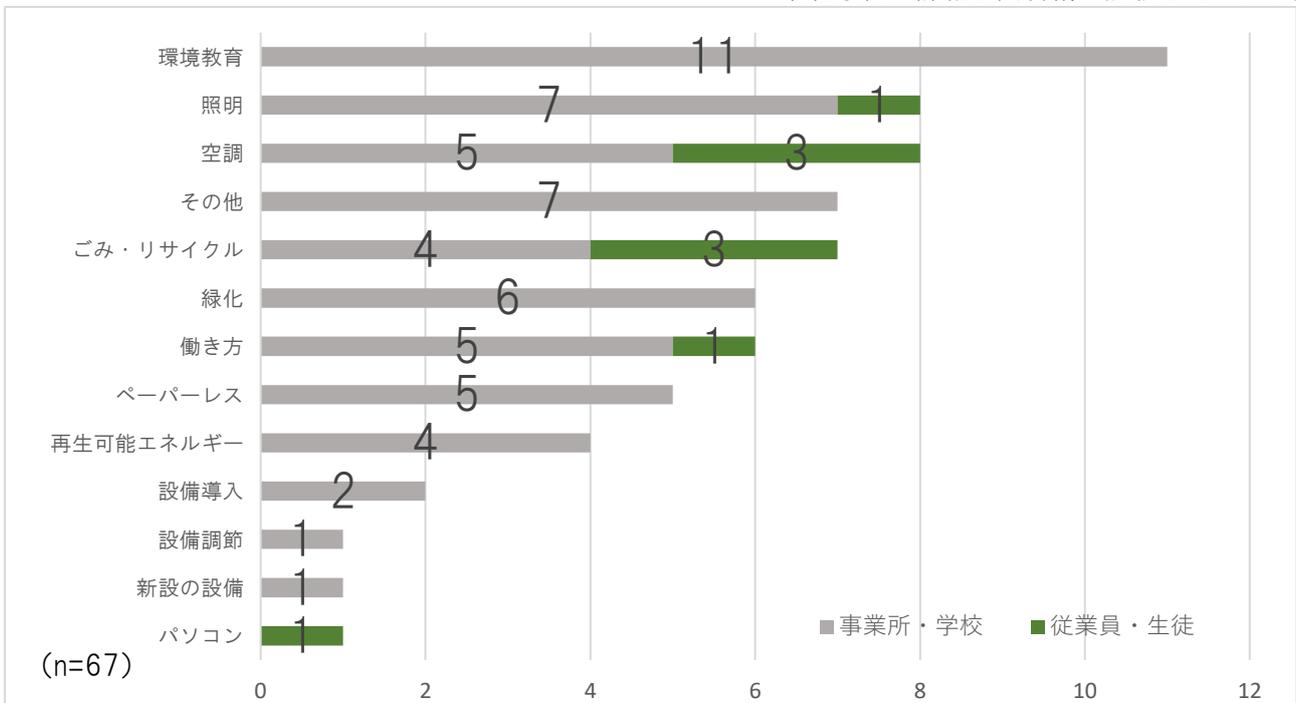
- 課題
- 利点

提案

- 区民への行動の提案
- 事業所・学校/区への提案

業務部門における行動の内訳

※取組事例の詳細は資料編に記載しています。

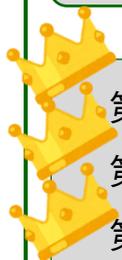


※グラフ内に記載している「n」は、「回答数」を意味する。

【集計方法】

- ① 1人5つの取組を順位をつけて投票
- ② 1位：5点 2位：4点 3位：3点
4位：2点 5位：1点
- ③ 14名の投票結果から点数を集計

参加者投票で選ばれたオススメ取組ベスト5！



- 第1位 **12点** 子ども・若者版のえどがわ気候変動ミーティング
- 第1位 **12点** 駐車場の芝張り/建屋屋上や壁面の緑化
- 第1位 **12点** クールビズ/ウォームビズの実施
- 第4位 **10点** 江戸川区として電子サービス化を推進・実施
- 第4位 **10点** ムダな会議をしない

えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group
A

学校や職場に緑をもっと！まちのオアシスづくり

行動

- ・学校や職場に緑の憩いの場づくりを推進する
- ・実のなる木を植える

発見

課題

- ・コンクリートが多いため、まちが暑い
- ・憩いの場や緑を増やすために利用できる土地が少ない
- ・樹木を管理する人がいない

提案

事業所・学校へ

区へ

- ・土地の活用のため屋上緑化や駐車場の芝張りを進めることを提案します。CO₂削減効果のほか、ヒートアイランド現象の緩和にもつながります。
- ・藤棚の設置もお勧めです。藤棚にはリラックス効果があるほか、日よけにもなり、涼しく過ごせます。美しいだけでなく、実用性もあります。
- ・樹木の管理をする方を雇い、雇用の創出につなげます。樹々の果実は地域のみんなで分け合ったり、直売所で販売したりします。

楽しみながら環境について学び、災害にも備えよう

行動

- ・環境について積極的に学ぶ
- ・ボランティア休暇を取得して、ボランティアに参加する

発見

利点

- ・新たな経験が学業・業務に活かせる

課題

- ・楽しみながらエコについて学べる機会が少ない
- ・ワークショップ等の存在が知られていない

提案

事業所・学校へ

区へ

- ・区内のバーベキュー施設に太陽光発電や風力発電設備を設置し、楽しみながら発電と使用量の関係を目で見て学べる場の創設を提案します。
- ・環境について考えるワークショップを開催し、災害時の炊き出し訓練も合わせて実施すれば、一石二鳥です。
- ・ボランティア休暇の活用に積極的な会社には区からエコラベル認定を行います。

えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group B

みんなで学ぼう！エコ教育

行動

- ・学校や会社の人たちがエコについて学ぶ

発見

利点

- ・学校や会社が地球環境問題や地域の環境取組みを意識した活動を行うようになる

課題

- ・学校や会社の人たちにはエコについて学ぶ機会がない人たちもいる

提案

区へ

- ・学校や会社へエコ教育を出張授業
- ・出張授業に参加したらマイナポイント等がもらえる制度
- ・色々な出張授業を用意
 - ・地域の自然・みどりの発見体験/水辺の楽校
 - ・学校での環境学習に親や地域の人を招く/大人も一緒に学ぶ機会
 - ・子ども・若者版のえどがわ気候変動ミーティング
 - ・会社の事業内容に応じた授業

江戸川区緑化計画！

行動

- ・学校や会社で緑化を進める

発見

利点

- ・温暖化の緩和
- ・食育や地域交流になる
- ・オシャレな街並み

課題

- ・土地がない
- ・所有者との交渉
- ・維持・管理がかかる

提案

事業所・学校へ

- ・学校や会社の壁面や屋上などへの積極的な緑化推進
- ・校庭の一部を授業を兼ねて菜園コーナーにする
- ・区民農園推進/区内の農業体験

区へ

- ・補助金や条例による緑化促進
- ・維持・管理の事業化（シルバー人材センター）
- ・維持・管理ボランティアへマイナポイント付与

えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group
C

“Winter20,Summer28” への道

行動

- ・部屋の室温を、冬は20℃、夏は28℃に調節する
- ・部屋の温度と湿度管理
- ・クールビズ/ウォームビズの推進

発見

利点

- ・冷房病対策
- ・全体の意識改革につながる
- ・電気代削減

課題

- ・室温と健康の関係の見直し
- ・高効率の空調機の導入

提案

事業所・学校へ

区へ

- ・建物の断熱化を進める
- ・標語づくりで認知度UP
- ・室内温度設定に対する企業の対外的告知を推進
- ・スーツ/制服についての見直し
- ・株式への影響について社員に理解させる



照明の見直しをしましょう



行動

- 【電気を消す】
 - ・昼休みは消灯する
 - ・残業を減らして照明を消す
 - ・室内灯のこまめな消灯
- 【電球をかえる】
 - ・白熱電球をLED電球に変更

発見

利点

- ・仕事と休みの区別がついて良い

課題

- ・LED仕様の照明器具が高い

提案

事業所・学校へ

区へ

- ・「不在の部屋の照明は必ず消そう」運動の実施

区へ

- ・LED普及キャンペーンの実施
「80%以上省エネになりますよ」の普及

5. 区民・事業者のみなさんの取組

区民・事業者のみなさん共通の取組

目指せ 🌍 カーボン・マイナス！

1日 1.9 キロ減！車の移動をへらそう！
(kg)

運輸
部門

の巻

江戸川区には約 22 万台の自動車があるんだ。

2018 年度は自動車 1 台 1 日あたり 5.4kg の二酸化炭素を出していたよ。



年度	2013 年度 基準年度	2018 年度 実績	2030 年度 目標
運輸部門の 二酸化炭素排出量	56 万トン	43 万 3 千トン	28 万トン
自動車 1 台あたりの 二酸化炭素排出量 (年間)	2.5 トン	2.0 トン	1.3 トン
自動車 1 台あたりの 二酸化炭素排出量 (1 日あたり)	7.0kg	5.4kg	3.5kg

自動車からの二酸化炭素排出量削減目標

2018 年度

43 万 3 千トン

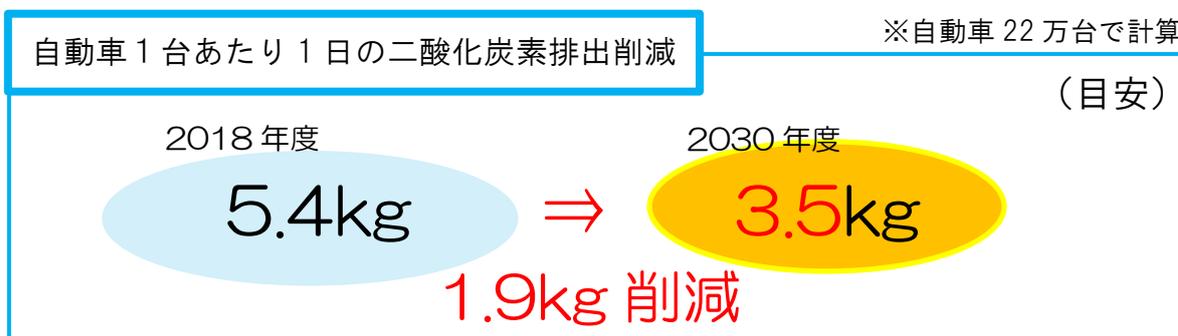
⇒

2030 年度

28 万トン

15 万 3 千トン削減 (12 年間)

自動車からの排出量を減らすには・・・

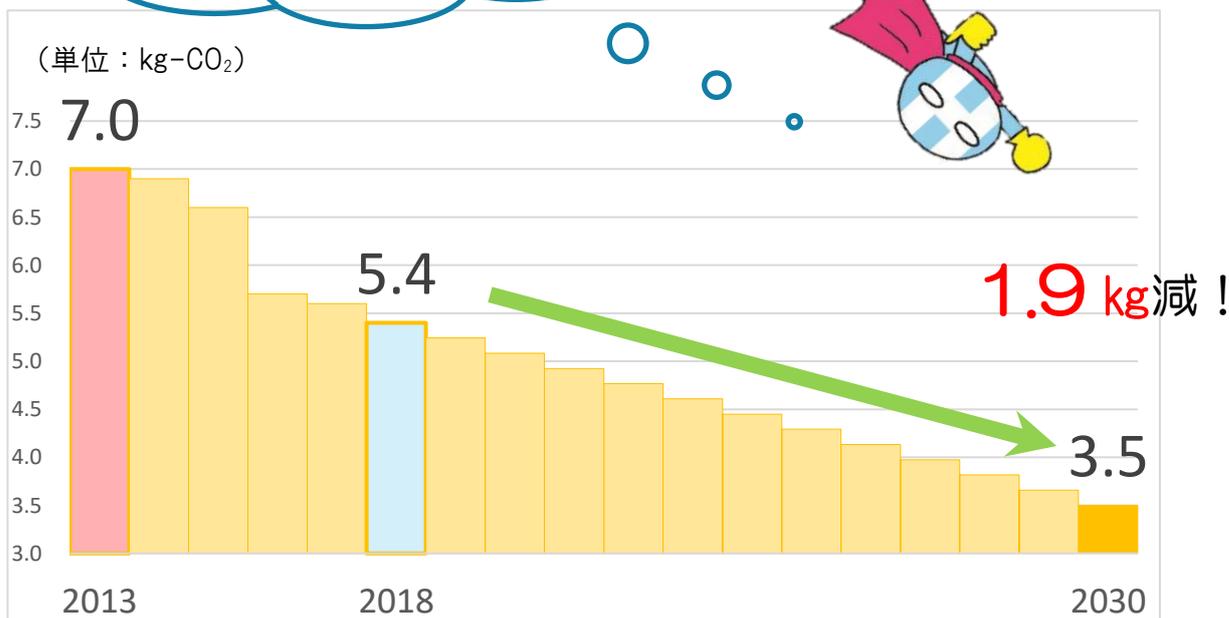


車の移動をへらそう!

みなさんが「自分ごと」と考えて、
地球にやさしい移動をすることが大切です



僕も、
地球にやさしい移動を
実践するよー!



「地球にやさしい移動」

= 「**エコムーブ**」のポイント

1. なるべく**車を使わない!**
2. 車を運転するときは**エコドライブ!**
3. 車を「**次世代自動車**」に**買い替える!**

テスト
出るよー

エコムーブには
こんなものがあるよ☆



- ♪ 近い距離は**歩いて**移動する（1 km 未満）
- ♪ 遠い距離は**自転車**で移動する（1 km～4 km ぐらい）
- ♪ ちょっと遠い距離はなるべく**公共交通機関**で移動する
- ♪ **レンタサイクル**を利用する
- ♪ 自動車を運転するときは**エコドライブ**をする
- ♪ **カーシェアリング**を活用する
- ♪ 自動車を**買い替える** など

◎自動車◎



特別なスキルがなくても、少しの心がけで、自動車運転時や移動時の二酸化炭素排出量を減らすことができます。また、自動車の買い替えや新規導入の際に、燃費のよい車種を選ぶことや、環境負荷の少ない燃料を利用することでも、二酸化炭素の排出量を削減することができます。自動車を持つ区民、事業所のみなさんの取組が大切です。

エコドライブ

エコドライブとは、地球温暖化防止につなげる“運転技術”や“心がけ”です。エコドライブを実践することで、燃料消費量や二酸化炭素の排出量を削減できます。

エコドライブ 10 のすすめ

- ①自分の燃費を把握しよう
- ②ふんわりアクセル「e スタート」
- ③車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
- ④減速時は早めにアクセルを離そう
- ⑤エアコンの使用は適切に
- ⑥ムダなアイドリングはやめよう
- ⑦渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- ⑧タイヤの空気圧から始める点検・整備
- ⑨不要な荷物はおろそう
- ⑩走行の妨げとなる駐車はやめよう

出典：「エコドライブ 10 のすすめ」（エコドライブ普及連絡会）

自動車の買い替え

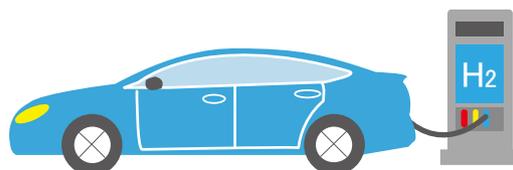
自動車を買う際は、電気自動車や燃料電池自動車などの「次世代自動車」に替えることで、二酸化炭素排出量の削減につながります。

EV 電気自動車
(Electric Vehicle)



ガソリン自動車はガソリンをエンジンで燃焼させ、車を駆動させるのに対して、電気自動車は電動モーターで車を駆動させる。走行中にCO₂や排気ガスを出さないといった環境面のメリットがある。

FCV 燃料電池自動車
(Fuel Cell Vehicle)



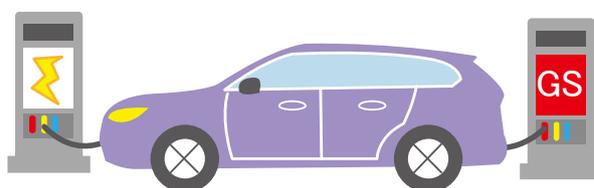
燃料電池を搭載した電気自動車のこと。ガソリン自動車に比べてエネルギー効率がが高いのが特長。排出されるのは水だけで、CO₂やNO_x、SO_xなどの温室効果ガス・大気汚染物質が排出されないため、「究極のエコカー」とも言われている。

HV ハイブリッド自動車
(Hybrid Vehicle)



複数種類の動力源をもち、これらの動力源を使い分け、排出ガスや燃料消費を抑制することができる自動車のこと。電気自動車と比較して、航続距離において強みを持っている。

PHV プラグインハイブリッド自動車
(Plug-in Hybrid Electric Vehicle)



コンセントから直接充電できる機能を持ったハイブリッド自動車のこと。ガソリン車と比べると1回の燃料補給でより長い距離を移動でき、ハイブリッド車と比べると電気走行できる距離が長い。

環境に配慮した燃料の利用

環境に配慮した燃料にする	効果
ディーゼル車に廃食用油を再生したBDF [*] を利用する	バイオマス資源の循環利用
バイオガソリン [*] などの環境に配慮した燃料を利用する	バイオマス資源の利用

事業所での取組例

1 目標の設定

事業所において、数値目標（前年比〇%向上）や取組目標を定める。

2 エコドライブの実践

従業員にエコドライブを実践してもらう。

3 燃費の記録

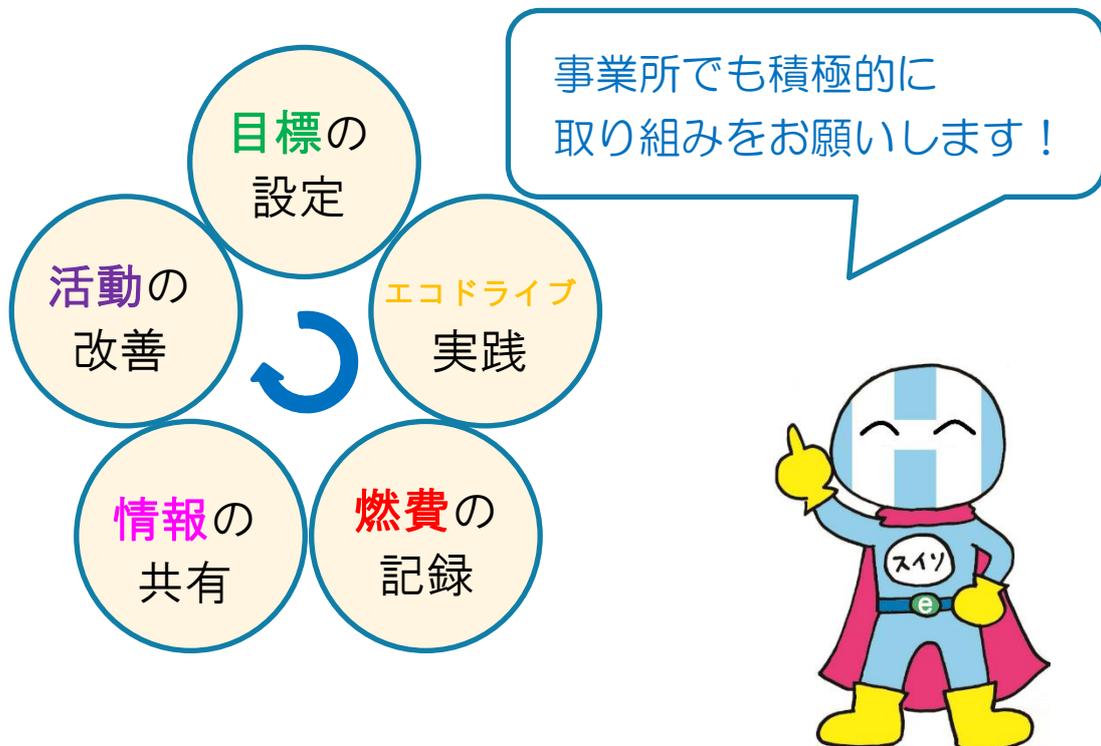
1カ月の終わりに燃費を記録し、データ管理をする。

4 情報の共有

燃費データをグラフ化し、職場内で情報の共有を図る。

5 活動の改善

職場内で意見交換を行い、見直し等がある場合は、積極的に改善する。
また、継続的に実践していく。

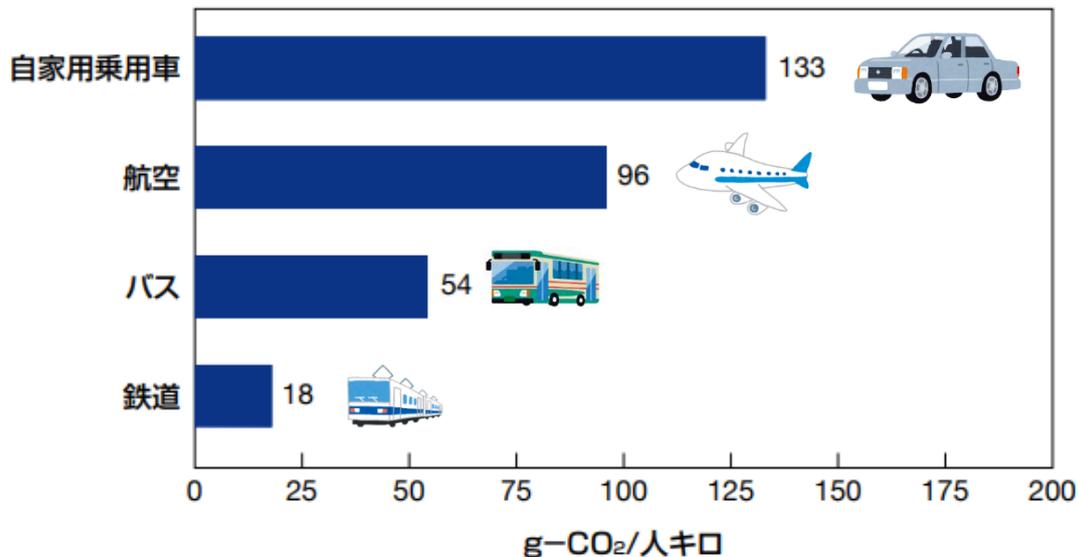


Let's エコムーブ!

自動車を持っていないみなさんも、なるべく二酸化炭素を出さないような移動をお願いします!

◎徒歩・自転車◎

下のグラフは、乗り物別に一人が1 km移動する際に排出される二酸化炭素の量をまとめたものです。自家用乗用車が最も多く二酸化炭素を排出することがわかります。



旅客輸送機関別の二酸化炭素排出原単位 (2018 年度)

出典: 「2021 年版 運輸・交通と環境」 公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団

移動の際には、自動車の利用を減らし、徒歩や自転車もしくは公共交通機関を利用することで、移動時の二酸化炭素排出量を削減することができます。

行動

- 1 km未満は健康のため徒歩で出かける
- 近くに出かける時は自転車で (1~4 kmは、自転車が一番早い)
- レンタサイクルを利用する
- 公共交通機関を利用する (電車とバスは省エネ優等生)
- カーシェアリングを利用する



エコムーブは
カラダにもいいね♪



サイクリングー♪



エコムーブかあ、

これからは意識して地球にやさしい移動を心がけるね。

でも、どうしたらいいのかな。

お出かけのときの移動手段で、
二酸化炭素がどれくらい出ているかを、
知ることが大切なんだ。



どうすれば知ることができるの？

「二酸化炭素どれくらい出ているかチェックシート」を、
使って計算すればわかるよ！

そして、お出かけするときに交通手段をいくつか考えて、

車で移動した場合に出る二酸化炭素の量と、

車の使用を減らして移動した場合に出る二酸化炭素の量を比較して、

二酸化炭素の出る量を、1.9kg へらせるような移動をしてね！



わかった！

わたしも区民・事業者のみなさんと一緒に、

エコムーブ、実践するわ！

ありがとう★

スイソマンの

お出かけのときは移動の方法をふたつ以上考えて、
それぞれの二酸化炭素の排出量を計算してみよう！

二酸化炭素どれくらい出ているかチェックシート！

移動手段	移動距離(km)	1人が1km移動する際に 排出される 二酸化炭素の量(g)	排出する 二酸化炭素(g)
	<input type="text"/>	<input type="text" value="133"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text" value="54"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text" value="18"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text"/>
合計	<input type="text"/> km		<input type="text"/> g
今回の移動で 排出する 二酸化炭素(kg)	<input type="text"/> g	<input type="text" value="1000"/>	<input type="text"/> kg

(g を kg になおす)

「二酸化炭素どれくらい出ているかチェックシート!」の使い方

<p>① そうだ・・・ 葛西海滨公園に行こう!</p> <p>ラムサール湿地 どんなかな～</p> <p>※江戸川区役所にいます</p>	<p>② どういう移動手段で行けば、 二酸化炭素の排出を 少なくできるかな・・・</p> <p>※考えています</p>	<p>③ 「二酸化炭素どれくらい出 ているかチェックシート」 で確認してみよう</p> <p>※思いつきました</p>
--	---	---

④ 江戸川区役所 → 葛西海滨公園

◎4つの移動手段で二酸化炭素の排出量を出してみよう! 【自分で作って確認】

車で行く場合

二酸化炭素どれくらい出ているかチェックシート!

移動手段	乗車人数	乗車時間	乗車距離	排出する二酸化炭素
車	1人	9.8分	133km	1303.4kg
バス	3人	54分	18km	162kg
自転車	1人	0分	0km	0kg
徒歩	1人	0分	0km	0kg
合計	5人			1465.4kg

車で行く場合の二酸化炭素排出量: 1.303kg

バスで行く場合

二酸化炭素どれくらい出ているかチェックシート!

移動手段	乗車人数	乗車時間	乗車距離	排出する二酸化炭素
車	1人	9.8分	133km	1303.4kg
バス	3人	54分	18km	162kg
自転車	1人	0分	0km	0kg
徒歩	1人	0分	0km	0kg
合計	5人			1465.4kg

自転車で行く場合

二酸化炭素どれくらい出ているかチェックシート!

移動手段	乗車人数	乗車時間	乗車距離	排出する二酸化炭素
車	1人	9.8分	133km	1303.4kg
バス	3人	54分	18km	162kg
自転車	1人	0分	0km	0kg
徒歩	1人	0分	0km	0kg
合計	5人			1465.4kg

走ったら疲れちゃって
葛西駅からバスで行く場合

二酸化炭素どれくらい出ているかチェックシート!

移動手段	乗車人数	乗車時間	乗車距離	排出する二酸化炭素
車	1人	9.8分	133km	1303.4kg
バス	3人	54分	18km	162kg
自転車	1人	0分	0km	0kg
徒歩	1人	0分	0km	0kg
合計	5人			1465.4kg

◎車で行く場合とそれ以外の場合で、二酸化炭素の排出量の差を計算しよう! 【分析】←これホント大事!

車で行く場合と比べて、二酸化炭素がどれだけへらせるかがわかるよ!

移動手段	排出量 (kg)	削減量 (kg)	削減率 (%)
バスで行く場合	1.303	0.529	40.6%
自転車で行く場合	1.303	0	0%
走ったら疲れちゃって葛西駅からバスで行く場合	1.303	0.162	12.4%

自転車で行くと、
車で行くより 1.303kg
二酸化炭素の排出量を
へらせるわ☆

※わかってうれしくなりました

<p>⑤ そしたら自転車で行こうね～</p> <p>※交通手段が決まりました</p>	<p>⑥ 江戸川区役所と葛西海滨公園 自転車で往復すれば、 車で行くより約 2.6kg へらせるね</p> <p>※そだね～</p>	<p>⑦ こんな感じで使ってネ! そしたら・・・ 葛西海滨公園行ってこようね～</p> <p>※めでたしめでたし</p>
--	--	--



運輸部門では、主に「自動車を使用する場合の提案」と「CO₂を排出しない移動方法」について、議論がされました。

自動車についての意見が多く出されましたが、宅配関係やライフスタイルの見直し等についての意見も挙げられました。

行動

- 今までの移動について
- CO₂排出しない移動方法を考える

発見

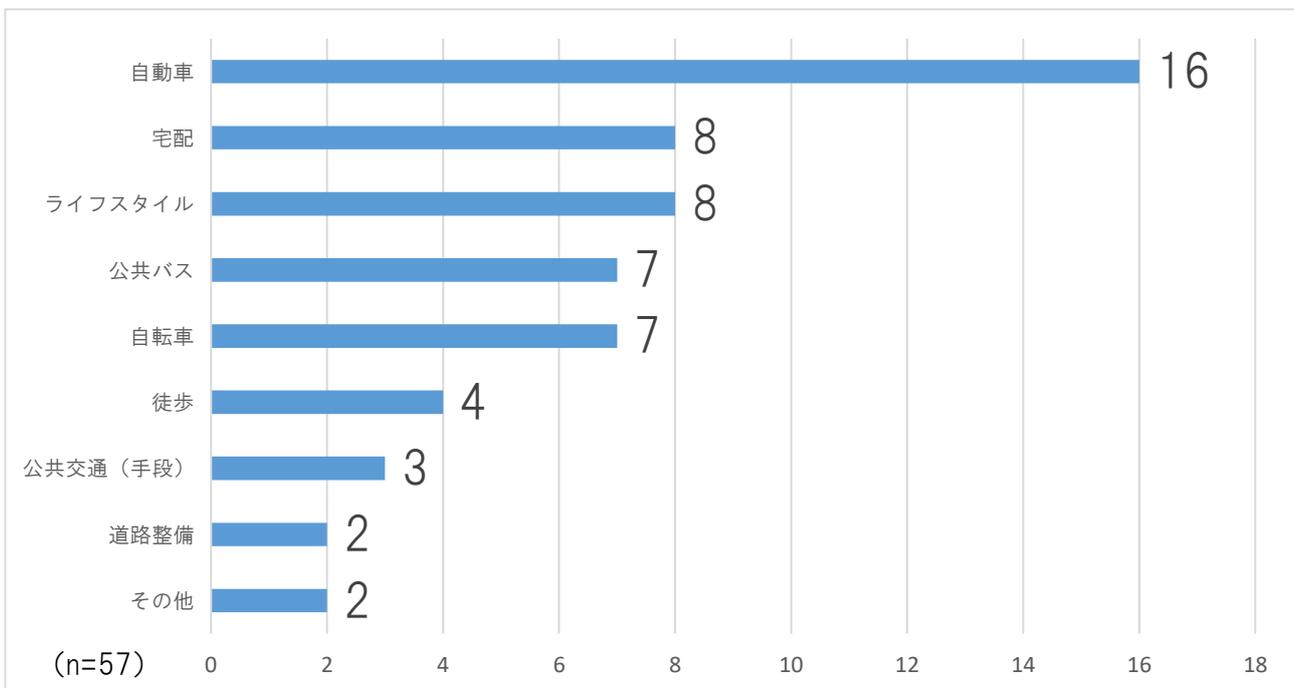
- 課題
- 利点

提案

- 区民へのecoムーブ実践の提案
- 区への提案

運輸部門における行動の内訳

※取組事例の詳細は資料編に掲載しています。



※グラフ内に記載している「n」は、「回答数」を意味する。

【集計方法】

- ① 1人5つの取組を順位をつけて投票
- ② 1位：5点 2位：4点 3位：3点
4位：2点 5位：1点
- ③ 14名の投票結果から点数を集計

参加者投票で選ばれたオススメ取組ベスト5！

第1位 **16点** バスや電車などの公共交通を使う

第2位 **14点** 自動車を所有しない

第2位 **14点** カーシェアリングやサイクリングシェアの普及促進

第2位 **14点** 宅配BOXの配布

第5位 **13点** リモートワークで長距離移動をへらす

えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group
A

車からのチェンジ！

行動

- ・車を持たない
- ・移動は極力歩く
- ・移動に自転車、電動キックボード、公共交通を使用する

発見

課題

- ・自転車道や駐輪場が少ない
- ・歩きたくなる場所が少ない
- ・乗り継ぎでバス会社が変わると料金が上がる

提案

区へ

- ・駐輪場を増やして欲しい
- ・緑道が増えると歩きたくなる
- ・電動自転車のレンタル、本体・バッテリー購入、リサイクルに対する助成金
- ・公共交通パスの配布や都バス・京成バス共通パスの導入

一度で終わらせたい宅配便

行動

- ・店舗で受け取る
- ・宅配が来るときに家にいる
- ・ECでの買い物をしすぎない
または、まとめて購入する

発見

課題

- ・店舗に行くのが大変
- ・どうしても家にいない時がある

提案

区民の方へ

- ・再配達を減らすために宅配BOXを利用

区へ

- ・宅配BOXの配布



えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group
B

車で行く必要がないまちの整備

行動

- ・車がなくても快適に生活できるまちづくり

発見

利点

- ・徒歩や自転車利用による運動不足解消
- ・ガソリン代・駐車場代がかからない

課題

- ・自家用車でないといけない場所がある
- ・自転車は雨がダメ/道が危ない
- ・徒歩移動が困難な方の移動手段確保

提案

区へ

- ・地域の中で買い物ついでに寄り道したくなるまちづくり(コンパクトシティ)
- ・車のいない交通インフラの整備
 - ・縦ラインの鉄道路線の整備
 - ・自転車通行帯・横断帯の拡充
 - ・シェアサイクリングの普及

Everybody share !!

行動

- ・インフラや制度を整備して人やモノの輸送効率を向上させる
- ・公共交通機関を使う

発見

利点

- ・排気ガスの抑制
- ・渋滞解消・スムーズな交通の実現

課題

- ・新型コロナウイルス感染リスク

提案

区へ

- ・電気・ハイブリッド車の普及/水素バスの拡充
- ・ライドシェア
- ・パークアンドライドの普及(駅前開発にパーキング整備を義務化する)
- ・地域の公共宅配ボックスがあるとよい
- ・マンションなど共同住宅に宅配ボックス設置助成金
- ・置き配設備の利用促進・拡充(個別宅配ボックス)

えどがわ気候変動ミーティングからの提案

Group
C

目指せ 人カマスター！

行動

- ・自転車移動
- ・徒歩移動

発見

利点

- ・健康増進
- ・CO₂削減

課題

- ・駐輪場が少ない
- ・自転車の交通マナーが悪い
- ・歩道・自転車道の整備

提案

区へ

- ・交通安全を意識した道路整備・駐輪場整備
- ・小中高校で自転車の交通ルールやマナー講座の実施
 - 〔・電動自転車の危険性の呼びかけを含める〕
 - 〔・近隣住民や企業をよぶ〕
- ・区画整理
- ・歩く楽しさ・自転車の楽しさを感じる取組
- ・まちの新しい発見



さようならマイカー



行動

- ・公共交通機関をどんどん使おう
- ・自動車を所有しない
- ・地球にやさしい自動車の活用

発見

利点

- ・CO₂削減
- ・渋滞の解消

課題

- ・公共交通機関でいけない場所がある
- ・電気自動車等のエコカーは高額

提案

区民の方へ

- ・公共交通機関の効率的な乗り方を考えよう
- ・通勤時のマイカー利用の抑制
- ・マイカーをエコカーに買い替えよう

区へ

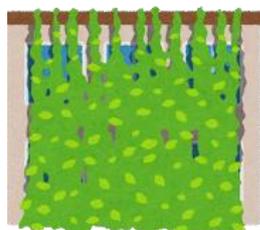
- ・深夜バスや早朝バスを増やしてほしい
- ・エコカーへの買い替え補助金
- ・シェアカーの設置推進
- ・時差勤務の推奨（渋滞の緩和）

6. オールエドがわみんなができる「みどりの取組」

水やみどりを上手に取り入れることで、温室効果ガスの吸収を図るとともに、緑陰の創出など、快適なまちづくりにも役立ちます。

水や緑を守り育てる	効果
屋上を緑化する	夏などに、屋上や最上階の温度を下げることで、冷房使用量を抑制
壁面緑化・緑のカーテンをする	夏などに、部屋の温度を下げることで、冷房使用量を抑制
敷地内を緑化する	二酸化炭素を吸収する
敷地の周囲を生垣にする	二酸化炭素を吸収する ヒートアイランド対策にもなる
雨水を植栽の散水などに利用する	水道の使用量を抑制

室内に入ってくる熱を少なくする工夫



緑のカーテン



屋上緑化



敷地内緑化

みどりは・・・
二酸化炭素の吸収もする！
暑さ対策にもなる！
実は、**緩和策**にも**適応策**にもなるんだよ！



7. 区の実施

区の実施

目指せ  カーボン・マイナス！

地球温暖化対策を実践します



区では、新たな温室効果ガス排出削減目標の達成に向けて、今までの第2次エコタウンえどがわ推進計画において実施した施策に加え、新たな地球温暖化の緩和策にも取り組みます。下記の新規施策について、取組や検討を行っていきます。

新規施策

- ・ 脱炭素先行地域への申請
- ・ 区施設・敷地への太陽光パネル設置
- ・ 公用車における電気自動車（EV）・燃料電池自動車（FCV）等の導入促進
- ・ EDOGAWA 環境教育プロジェクト（環境教育・啓発）
- ・ 温室効果ガス排出ゼロ（緩和策）と災害対策機能（適応策）を兼ね備えたモデル公園「ゼロ・エミッション・パーク（ZEP）※」として整備

区の実施の基本方針

- 1 学びや体験の機会をつくれます
- 2 区民・事業者の実施を支援します
- 3 環境を保全し活かすまちをつくれます
- 4 区の事業活動に伴う温室効果ガスを減らします



(1) 学びや体験の機会をつくります

1) 基本方針

えどがわエコセンターと協働し、地球温暖化対策に関する普及啓発や情報提供を活発にし、区民や事業者・地域とともに環境教育・環境学習の機会を増やします。

1 情報発信

広報えどがわ、区ホームページのほか、イベントやセミナーなど様々な機会を活用し、地球温暖化の現状や対策の効果などの情報を発信します。

2 講座・講習会の開催

環境に関する講座・講習会などを開催し、区民が環境問題について考え、行動する機会や場を提供します。

3 イベントでの啓発

区民まつりをはじめ、地域まつりや各種イベントを通して、省エネルギー行動や再生可能エネルギーなどに関する啓発を進めます。

4 取組の支援

様々な地球温暖化防止の取組を積極的に支援し、地球環境保全に関する区民の知識を深め、意識を高めます。

5 環境教育・環境学習

環境教育や体験型環境学習の場を提供し、次世代を担う子どもたちを含め、区民や事業者による地球温暖化対策のために行動するきっかけを作ります。

6 プログラムの整備と人材育成

地球温暖化防止のための活動や学習を促進するためのプログラムづくりや人材育成を進めます。

2) 施策

1 情報発信

【取組欄の表記について】

新：本計画から新たに位置付けられた取組（すでに実施している取組も含む）

継：第2次エコタウンえどがわ推進計画において位置付けられている取組

継：第2次エコタウンえどがわ推進計画において、2022年度までに取組方法を検討する事業

※取組については、今後も継続していきます

施策	事業名	実施イメージ	取組
省エネルギー活動の普及	生活スタイル見直し運動	江戸川版省エネガイドブック等を活用し、無理のない省エネルギー生活を自発的に行えるようアドバイスをします。	継
	中小事業者への省エネ診断の周知	東京都地球温暖化防止活動推進センター（クール・ネット東京）による無料診断制度等を活用し、省エネを図ります。	継
	家庭へのエコ診断の周知	環境省による「家庭エコ診断制度」を活用し、省エネを図ります。	継
	事業者の省エネ支援	区内事業者や区民を対象とした講演会等を通して、省エネルギー活動の自発的な取組を促します。	継
	ホームページ、情報紙の充実	区、えどがわエコセンターのホームページを充実させます。「エコちゃんねる」等の情報紙を発行し、区民の関心を高めます。	継
図書館環境学習	図書館環境コーナーの設置	環境問題に関する資料コーナーを各図書館内に開設し、区民意識の高揚を図ります。	継
省エネルギー情報の提供	「みんなで『いまいのち』と『みらいの地球』を守る計画」のPR	「えどがわ区民ニュース特集」を制作します。「広報えどがわ」で特集紙面を掲載します。	新

2 講座・講習会の開催

施策	事業名	実施イメージ	取組
講座・講習会	環境講演会の開催	地球環境問題への関心を高め、実践に結びつく講演会を開催します。	継
	環境講習会の開催	リサイクル実践講座や緑化講習会などのプログラムを企画・実施します。	継
		家族でともに環境を学ぶことのできる親子講習会やワークショップを開催します。	継
	出前講座	ごみ減量や3R [*] への意識向上を図るため、町会や自治会に出向き講座を実施します。	継
廃棄物管理責任者講習会	廃棄物管理責任者に対して廃棄物の減量、適正処理等の講習会を実施します。	継	

3 イベントでの啓発

施策	事業名	実施イメージ	取組
省エネルギー活動の普及	「みんなで『いまいのち』と『みらいの地球』を守る計画」のPR	各種イベント等で、「みんなで『いまいのち』と『みらいの地球』を守る計画」のPRを行います。	新
セミナー等での啓発	地球温暖化の啓発	起業家セミナー等にて地球温暖化の啓発を行います。	新

4 取組の支援

施策	事業名	実施イメージ	取組
省エネルギー活動の普及	省エネナビ※の貸し出し	省エネナビを貸し出し、待機電力や通常の使用電力の見える化を進め、さらなる省エネにつなげます。	継
	クールシェア、ウォームシェア※の推進	区有施設を核としたクールシェア、ウォームシェアの仕組みづくりを検討します。	継

5 環境教育・環境学習

施策	事業名	実施イメージ	取組
総合人生大学・えどがわエコセンターとの協働	人生大学環境学習	授業の中に環境の視点を取り入れ、様々な角度から地球環境を考える機会を作ります。	継
	協働事業の実施	環境に関心のある学生やOBによるまちづくり活動を支援し、えどがわエコセンターなどとの協働を進めます。	継
小中学校環境教育	授業で学ぶ地球温暖化防止	地球環境に関わる問題について理解し、環境保全に主体的に取り組む意欲を育てます。	継
	グリーンプラン推進校	えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校で、学校の特色を活かした省エネルギー活動や壁面緑化、ごみ学習、自然観察活動等を活発にします。	継
	適応指導教室の環境学習	適応指導教室での草花・作物の栽培活動を通じ、緑化と環境学習に役立てます。	継
	環境学習出前講座	小中学校向けの環境プログラムを総合学習の時間などを活用して出前授業として実施します。	継
3R・ごみ減量学習	副読本「えどがわくのごみダイエットにチャレンジ！」による学習	小学校4年生の全児童に配付する清掃事業関係副読本を活用し、社会科学習の中で3R・ごみ減量の必要性を学ぶほか、家庭科や総合的な学習の中でも活用して、意識の啓発を図ります。	継
	情報誌「ごみダイエット」の発行	ごみ減量や3Rへの意識向上を図るため、情報誌を発行します。（年3回発行）	継
	施設見学会	ごみ減量や3Rへの意識向上を図るため、リサイクル施設や埋立処分場の見学会を実施します。	継
地球温暖化の啓発	年長児に対する地球温暖化の啓発活動	<p>幼少期から地球温暖化について学び、温暖化に対する知識および意識の向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化による弊害を知る ・自分たちができる取り組みについて考える ・区内各公立保育園で実施する 	新

6 プログラムの整備と人材育成

施策	事業名	実施イメージ	取組
環境教育・学習でのプログラムの整備	プログラムの作成	「もったいない運動」を中心に、世代に応じた環境教育用のプログラムを作成し、地球温暖化に取り組む人材を育成します。	継
環境学習活動の支援	環境学習リーダーの養成講座	環境学習リーダー養成講座等の実施により、実践する区民の輪を広げます。	継
環境教育	EDOGAWA 環境教育プロジェクト	教育委員会、学校と連携して、地球温暖化や気候変動についての環境教育を実施します。	新



水素啓発マンガ

「水素とはどのようなものか」を、子どもから大人まで、多くの方がわかるように、スイソマンが教えてくれます。



マンガにとべるよ!





(2) 区民・事業者の取組を支援します

1) 基本方針

地球温暖化問題に関する情報の提供や、活動に役立つ事業を進め、すべての区民や事業者・地域の取組を支援します。

1 再エネ・省エネ設備導入の促進

事業者の太陽光発電やコージェネレーションシステム、燃料電池などの再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入を促します。

家庭用の太陽光発電や太陽熱温水器、高効率給湯器などの再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入を促します。

2 もったいない運動の推進

えどがわエコセンターを中心に展開している「もったいない運動えどがわ」を、全区民が参加する取組として推進し、環境に配慮した暮らしを地域全体に拡大します。

3 環境に配慮する事業所の増加と取組の充実

省エネルギー・ごみ減量など、環境に配慮する事業所を増やし、取組の充実を図ります。

4 環境にやさしい交通促進

ガソリンを使う量を減らすため、バスや地下鉄などの公共交通機関、次世代自動車や自転車の利用を促進します。

5 3Rの推進

事業所から出るごみを減らすため、簡易包装などの省資源の取組を進めます。
家庭から出るごみを減らすため、マイバッグの利用や徹底した資源の分別を推進します。

2) 施策

1 再エネ・省エネ設備導入の促進

施策	事業名	実施イメージ	取組
再生可能エネルギー等の普及	一般住宅への普及促進	太陽光等の普及に向け、国や都の支援制度の情報提供や住宅リフォーム融資斡旋制度を実施します。	継
	住宅・ビル等への普及促進	東京都による「屋根ぢから」ソーラープロジェクト等の制度を活用し、住宅用太陽光発電・太陽熱利用の普及を図ります。	継
	革新的なエネルギー高度利用技術の導入の促進	ヒートポンプなどの技術を活用した高効率給湯器や空調機などの導入促進を図ります。	継
	地中熱 [*] の利用促進	地中熱を利用した効率的な空調機の導入促進を図ります。	継
	エネルギーの面的利用の促進	燃料電池やガスコージェネレーションなどを効率よく運用するために、エリアでの導入促進を図ります。	継
	水素エネルギー [*] の普及促進	水素エネルギーや燃料電池をテーマとした講演会の開催等を通じて、将来的な水素社会について区民の関心を高めます。	継
	燃料電池の普及	家庭用燃料電池、業務・産業用燃料電池の普及を促進します。	新
	太陽光発電の普及促進	住宅用太陽光発電・蓄電池等の普及促進を行います。	新
	再生可能エネルギーの活用	地域における再エネシェアリングの展開等、再生可能エネルギーの活用を促進します。	新
省エネルギー設備等の普及	住宅への省エネルギー機器の普及の検討	住宅へのLEDや高効率空調などの省エネルギー機器の普及を検討します。	継
	集合住宅へのLED照明の普及の検討	集合住宅へのLEDの照明機器の普及策を検討します。	継
	エネルギー管理システムの普及	住宅や事業所の省エネを促進するため、HEMS・BEMS [*] 等の普及を図ります。またスマートメーターを活用した見える化の促進を図ります。	継
	スマートハウスの普及促進	太陽光発電設備や燃料電池、蓄電池等を効果的に活用することにより省エネを図るスマートハウスを普及促進します。	継
	マンションのスマート化	マンション全体をエネルギー管理することにより、無理のない節電を行うスマート化の促進を図ります。	継
	長期優良住宅の認定	良好に長く住み続けることで環境への負荷を軽減するなどの目的にそった住宅の建築に対する認定を行います。	継
	低炭素住宅の認定	省エネルギー性能を備えた住宅を新築する際に認定を行います。	継
	東京ゼロエミ住宅の普及	「東京ゼロエミ住宅」の普及拡大を促進します。	新
	エネルギーネットワークの構築	スマートエネルギーネットワーク構築支援について検討します。	新
省エネルギー情報の提供	エコカンパニーえどがわ登録事業所の実績をホームページ等で公開します。	継	

2 もったいない運動の推進

施策	事業名	実施イメージ	取組
生ごみのリサイクル	堆肥化講習会	えどがわエコセンターが実施する「生ごみ堆肥化リサイクル講習会」の参加者を増やし、家庭ごみの減量を図ります。	継
料理教室	エコクッキング	省エネルギーやごみ減量等に配慮した料理教室を実施します。	継
マイ箸	マイ箸キャンペーン	イベント等を通じ、マイ箸持参を呼びかけます。割り箸を使わない飲食店などの情報も紹介していきます。	継
マイ容器	マイ容器の普及	コーヒーショップやデリカショップにマイカップやマイ水筒を持参し、プラ容器の使用を減らす取組をPRします。	継
レジ袋削減	マイバッグキャンペーン	春の環境月間（6月）と秋の3R推進月間（10月）にあわせて商店街やスーパーマーケット、コンビニエンスストア等と連携したキャンペーンを実施します。	継
	レジ袋削減作戦	マイバッグ運動を推進するスーパーマーケット、コンビニエンスストアに共通ステッカーを掲示し、レジ袋の使用を減らします。	継
節電の継続	省エネ・節電キープ行動の実践	東日本大震災以降に定着している区民・事業者の省エネ・節電の取組を継続します。	継
地域との連携	学校版もったいない運動との連携	学校版もったいない運動と連携し、小中学校に“もったいない”を広めます。	継
	商店街との連携	商店街の店舗に省エネやごみ減量を広めます。また、商店街のイベント等で利用者にも取組を広めます。	継
	町会・自治会等との連携	環境をよくする地区協議会や各種団体と連携し、地域まつり等の機会に区民へもったいない運動を広めます。	継
表彰	もったいない運動の表彰	省エネルギー・省資源・ごみ減量等に取り組んだ家庭や団体を表彰し、運動の拡大を図ります。	継
事例紹介	区民・事業者の取組事例の紹介	区民や事業者によるもったいない運動の取組事例を集めて紹介します。	継

3 環境に配慮する事業所の増加と取組の充実

施策	事業名	実施イメージ	取組
エコカンパニー えどがわの拡大	拡大に向けた呼びかけと支援	エコカンパニーえどがわの拡大に向け、参加を呼びかけるとともに、融資制度などにより支援します。	継
省エネルギー支援融資あっせん	経営向上資金融資	「みんなで『いまの生命』と『 ^{いのち} みらいの地球』を守る計画」に即した、省エネルギー設備を対象とした融資制度を実施します。	継
事業者の環境マネジメント認証取得促進	経営力向上助成金	区内中小企業者のISO14001 およびエコアクション21の認証・取得を促進します。	継
区内製造業の開発支援	エコ関連製品の開発支援	区内の中小企業がエコ関連製品を開発する際の支援について検討します。	継
森林吸収源 [※] 対策	森林吸収源対策推進	カーボンオフセット [※] の考え方により、他の自治体と森林整備と吸収量認定に関する協定を締結します。	継
住宅リフォーム資金融資あっせん	住宅リフォーム資金融資あっせん事業	省エネ機器設置等のリフォーム資金融資について、優遇利率を適用し、住宅のエコ化を推進します。	新
省電力型(LED)街路灯設置費助成	省電力型(LED)街路灯設置費助成事業	商店街LED街路灯設置費助成事業を行います。	新
商店街エコイベント支援事業	商店街エコイベント支援事業	商店街がエコセンターと連携して実施する事業への補助をします。	新
江戸川区住宅等整備事業における基準等に関する条例による民間建築物への指導	緑地整備、省エネルギー設備の設置、雨水流出抑制施設等の設置推進	住宅整備条例による民間建物への緑地整備、省エネルギー設備の設置、雨水流出抑制施設等の設置を推進します。	新
脱炭素対策技術・製品開発支援	脱炭素対策技術・製品開発支援	新製品・新技術開発支援事業において、脱炭素に資する取り組みの場合、助成金の助成率を上乗せを検討します。	新

4 環境にやさしい交通促進

施策	事業名	実施イメージ	取組
公共交通機関の利用推進	バス専用レーンの整備	バス路線に専用レーンの整備を検討します。	継
自転車利用の推進	レンタサイクル事業・コミュニティサイクル事業	駅や公共施設等の地域拠点を中心にレンタサイクルを用意し、自転車の利用およびシェアリングを推進するとともに、電車等の公共交通と自転車を組み合わせたサイクルアイランドシステムを確立します。	継
	自転車へのモーダルシフト※促進	自転車へのモーダルシフト促進により地球環境の負荷緩和、道路走行車両減少を図ります。	新
	駐輪場の効率的利用	駅に向かう人、駅から移動する人が自転車を共有し、駐輪場の効率的利用を図ります。	新
自転車利用環境の整備	自転車走行環境の整備	駅へのアクセスを中心に自転車が安全に走行できる通行帯を整備します。	継
		自転車走行帯にカラー表示・ピクトグラム（自転車ナビマーク）を表示し、利用しやすくします。	継
	駐輪場の整備	自転車を利用しやすい環境づくりのため、駐輪場の整備を進めます。	継
	自転車走行環境の整備（自転車レーン等）	区道における自転車の走行空間を整備し、環境負荷の低減および交通事故の抑制に寄与します。	新
エコドライブの推進	エコドライブ実践に関する普及啓発	アイドリングストップや急発進の抑制など、燃料を効率的に消費するエコドライブについて普及啓発を行います。	継
電気自動車の普及促進	急速充電設備の整備	区内において電気自動車用の急速充電設備の普及促進を図ります。	継
燃料電池自動車の普及促進	燃料電池自動車の普及促進	燃料電池自動車の普及啓発に資する情報提供を行います。	継
公共交通の環境配慮推進	地球環境に配慮した公共交通および施設の推進	バス事業者に対し、燃料電池バス、ハイブリッドバス、圧縮天然ガス※バス（CNG）など、環境に配慮した車両の導入や、ソーラー内照式標識柱・上屋、照明のLED化を推進します。	継
再配達の削減	再配達削減対策の普及啓発	宅配ボックスの設置・利用や宅配便を1回で受け取るための工夫など、宅配便の再配達を減らすための対策に関する普及啓発を行います。	継



レンタサイクル事業



自転車通行帯

5 3 Rの推進

施策	事業名	実施イメージ	取組	
ごみ減量キャンペーン	マイバッグ運動	マイバッグ運動を展開し、レジ袋の削減によるごみ量の減少を目指します。	継	
	長く使おう運動	「必要なものだけを」「大切に使う」ことを広くPRします。リサイクル・バンク、フリーマーケットやリサイクルショップ協力店の情報を発信します。	継	
	簡易包装運動	小売店での簡易包装やばら売りを奨励し、区民にエコストアの情報を提供します。	継	
	分別と資源利用	イベント等で発生する容器や紙の分別を徹底し、資源化を進めます。	継	
	小型家電リサイクルの推進	ごみの減量と資源の有効活用、埋立処分場の延命を図るため、小型家電に含まれているレアメタルをはじめとした金属のリサイクルを推進します。	継	
	食育の推進	「買いすぎない、作りすぎない、食べ残さない」の「3ない」の普及によりごみを減らす取組を推進します。	継	
	食べきり推進運動	外食時や家庭での食べ残しの削減を促進し、食品ロスの削減を図ります。	継	
	リサイクル本の配布	軽微な汚れや破損等の図書をリサイクル本として各図書館やイベントにて無料配布します。	継	
	食品ロスの削減		食品ロス削減推進計画に基づき、食品ロス削減の取組を推進します。	新
			食品マッチングアプリの導入など、DX※の視点も取り入れて食品ロスの削減を推進します。	新
		食品ロス削減推進会議を開催し、食品ロス削減の取組の実績や成果を確認し、更なる取組への足掛かりとします。	新	
		食品ロス削減の推進に向けて、フードドライブを実施します。	新	



(3) 環境を保全し活かすまちをつくります

1) 基本方針

温室効果ガスを減らすために、区民や事業者の努力に頼るだけでなく、環境にやさしいまちづくりを進め、気候の変化に適応する仕組みをつくります。

1 低炭素なエネルギーを使うまちづくり

太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入など、低炭素なエネルギーを使うまちづくりを進めます。

2 水とみどりのまちづくり

屋上緑化や壁面緑化などを含め、建築物の環境性能向上のための取組を進めます。公園や緑地、親水緑道などの水と緑の空間を保全し広げます。

3 3Rの実践による循環型まちづくり

3R：リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再利用）に広く取り組み、循環型まちづくりを進めます。

2) 施策

1 低炭素なエネルギーを使うまちづくり

施策	事業名	実施イメージ	取組
エネルギー自給率の向上	再生可能エネルギー等の導入促進	太陽光発電やガスコージェネレーションシステム、燃料電池などの分散型発電設備の導入やソーラーシステム、ヒートポンプなどのエネルギー効率の高い設備の導入促進を図ります。	継
	スマートコミュニティの構築検討	再生可能エネルギー設備、省エネルギー設備とともに情報通信技術によりエネルギーを効率的に利用するスマートコミュニティの構築を検討します。	継
	防災拠点の整備	再生可能エネルギー等を利用した自立・分散型のエネルギーシステムによる避難所の整備を図ります。	継
商店街が実施するエコに関するイベント事業に補助	商店街エコイベント支援事業	商店街とえどがわエコセンターが連携して実施するエコに関するイベント等に対して補助金を支出します。	継
商店街装飾灯のLED化	省電力型街路灯設置補助および貸付	商店街が所有する装飾灯のLED化に必要な費用の一部に対する補助や、必要に応じて貸付を行います。	継
コミュニティファンド※の活用	コミュニティファンド活用の研究	ファンドの手法による再生可能エネルギーの導入などを検討します。	継
エコポイント	エコポイント算定方法の検討	もったいない運動に参加した区民等の温室効果ガスの削減に対する貢献度をポイントなどで表現できる算定方法を検討します。	継

2 水とみどりのまちづくり（その1）

施策	事業名	実施イメージ	取組
環境配慮型建築	建築物環境計画書制度の普及啓発	環境に配慮した質の高い建築物が評価される市場の形成と、建築主の自主的な取組を目的に東京都が建築物計画書制度を推進しています。都と連携しながら制度の情報発信と普及拡大を図っていきます。	継
	建築物の省エネ基準に関する情報発信	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に基づく省エネ基準の適合義務等について、関連機関と連携しながら情報発信と啓発を行います。	継
	住宅の環境性能評価制度の普及啓発	環境性能の高い住宅について長期優良住宅認定や低炭素住宅認定、環境性能表示などの制度を通じて普及拡大を図るとともに、関係機関と連携しながら、税制優遇や融資、緩和措置などの情報発信と啓発を行います。	継
水とみどりのネットワーク	江戸川区みどりの基本計画の推進	水とみどりのネットワークで、「水・緑、ともに生きる豊かな暮らし」を推進します。	継

2 水とみどりのまちづくり（その2）

施策	事業名	実施イメージ	取組
屋上緑化、壁面緑化	屋上緑化、壁面緑化の普及促進	屋上緑化や壁面緑化の普及促進を進めるとともに、一定規模以上の開発に対しては関連条例に則り指導していきます。	継
	みどりのカーテンの普及促進	窓の開口部を覆い、葉の蒸散効果による涼しさを生む「みどりのカーテン」の普及促進を図ります。	継
	公園整備・緑化推進	生態系に配慮した公園整備・緑化の推進をします。	新
	公園の新設、拡張	公園不足地域等について、用地の確保を行い、みどりを増やす取組を行います。	新
	地区計画	建築等の際に、敷地内や道路に面する塀の緑化を図り、まちなかの緑化を推進します。	新
	農のある風景の保全・育成	農の風景育成地区を指定し、将来にわたり緑地の確保と農のある風景を保全・育成します。	新
	区民農園の開設・運営	営農困難な農地に対し、区が農地を借り受け区民農園を開設し運営します。	新
雨水利用	雨水利用	区建設物において雨水利用を進め、水道施設に関わるエネルギーを軽減し、二酸化炭素の排出量を削減します。	新

3 3Rの実践による循環型まちづくり

施策	事業名	実施イメージ	取組
3Rの推進	リユースカップ	3Rに関する新しい情報を発信します。イベント時にはリユースカップなどを取り入れ、ごみを減らします。	継
	講座講習	リフォーム講習会など、ものを大切に長く使う講座を支援します。	継

(4) 区の事業活動に伴う温室効果ガスを減らします



1) 基本方針

省エネルギー改修や次世代自動車の導入など、区の事業活動に伴う温室効果ガス排出量の削減に率先して取り組みます。

1 建物の省エネ改修

省エネルギー改修を積極的に導入し、区施設のエネルギー消費量を減らします。

2 次世代自動車の導入

公用車に電気自動車や燃料電池自動車などの次世代自動車を導入します。

3 再エネの積極的な利用

区施設に太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーを導入します。屋上緑化・壁面緑化の導入を進めます。

4 グリーン購入の推進

物品等の調達時には、グリーン購入を進め、環境に配慮した製品を使用します。

5 省エネルギー活動の実践

庁舎などでの電気・ガス・燃料の使用量を減らすための省エネルギー活動を進めます。

6 脱炭素に向けた取組の推進

脱炭素社会の実現に向けて、取組を進めます。

7 二酸化炭素の吸収源対策

森林、木材等による二酸化炭素の吸収源対策を進めます。

2) 施策

1 建物の省エネ改修

施策	事業名	実施イメージ	取組
省エネルギー改修	省エネルギー改修の実施	LED 照明や高効率機器の導入など省エネルギー改修を積極的に行います。	継
	エコ建築	区施設工事の際は、外断熱工法や太陽熱反射塗装などの省エネルギー工法を導入します。	継
	区道の街路灯のLED化	区道の街路灯を水銀灯からLEDに改修します。	継
	環境配慮型庁舎	新庁舎はエネルギー使用量を50%以上削減します。	新
	省エネルギー化の推進	人感センサーの活用、ブラインドの設置、屋内照明・温度の管理等により、省エネルギー化を推進します。	新
	空調負荷軽減	Low-e ガラスの利用や全熱交換器の活用により、空調負荷を軽減します。	新

2 次世代自動車の導入

施策	事業名	実施イメージ	取組
次世代自動車の導入	電気自動車などの次世代自動車導入	公用車の買い替え時にはハイブリッド*車、電気自動車、燃料電池自動車などの次世代自動車導入を検討します。	継
		ZEV*の導入を促進します。	新

3 再エネの積極的な利用

施策	事業名	実施イメージ	取組
再生可能エネルギーなどの導入	太陽光発電設備の設置	区建築物の新設時や学校改築時の他、既存建物に、太陽光発電を取り入れます。	継
	公園等での太陽光・風力利用	公園等は、芝生や草地、土等保水性に配慮した表面整備とするとともに、時計や照明にも太陽光等の再生可能エネルギーの利用を進めます。	継
	再生可能エネルギーを利用した公園施設の整備	再生可能エネルギーを有効利用することで発電に伴う二酸化炭素排出量の削減を図ります。	新
	太陽光発電の活用	ソーラー充電スタンドを設置します。	新
		公園施設へのソーラー園灯の導入を進めます。	新
	電力会社の設立	地域における再エネ電力会社の設立に向けた研究を推進します。	新
水素エネルギーの活用	水素ステーションの整備を促進します。	新	



水素ステーション葛西

2020（令和2）年2月に臨海町の葛西水再生センター内に開所しました。短時間で多くの水素の充填が可能なバス対応ステーションです。



燃料電池自動車の導入

2022（令和4）年4月に燃料電池自動車「MIRAI」を5台導入しました。この燃料電池自動車は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で運営車として使用されたものです。



ソーラー充電スタンド

2020（令和2）年12月に区役所本庁舎前庭に設置しました。太陽光による発電を行い、夜間はLED照明が点灯します。また、停電時には非常用電源として活用でき、スマートフォンの充電も可能です。



4 グリーン購入の推進

施策	事業名	実施イメージ	取組
環境に配慮した物品等の調達	グリーン購入	区が購入する物品は、環境に配慮した製品を選定します。また、区が使用する電気は、電気事業者の二酸化炭素排出係数、再生可能エネルギー利用割合等を評価の上、選定します。	継
	国産木材の調達	区施設の建設等に木材を使用する際には、国産材の優先的な調達を検討します。	継
	電力調達	環境に配慮した電力調達を行うため、PPS※の入札を促進します。	新

5 省エネルギー活動の実践

施策	事業名	実施イメージ	取組
江戸川区環境行動計画の取組の推進	江戸川区環境行動計画の取組の徹底	事務事業の実施に伴う温室効果ガス排出削減をめざした江戸川区環境行動計画の取組の徹底を図ります。	継
		システムの電子化により、ペーパーレス化および来庁者の交通機関等の利用低減を推進します。	新
		フリクシヨントナーコピー機の導入により、紙の使用量を削減します。	新
		省エネ・3R等の推進等、環境保全に配慮した取組の啓発を行います。	新
		庁用車を一元管理することで、不要な車の減車をを行います。	新
すくすくエコスクール	児童とともに取り組む省エネルギー・3R	ごみの分別回収、裏面利用など、児童とともに省資源・3Rを実践します。扇風機やみどりのカーテンなどにより、冷房だけに頼らない工夫をします。	継
排熱の有効利用	排熱利用	清掃工場の排熱を利用し、小学校・中学校へ電力を供給します。	新

6 脱炭素に向けた取組の推進

施策	事業名	実施イメージ	取組
脱炭素への取組	脱炭素に向けた政策	脱炭素・気候変動対策を意識した政策立案および予算編成、管理、効果測定を行います。	新
	公共施設の脱炭素化	新築公共施設の脱炭素を反映した建設を推進します。	新
	脱炭素先行地域への検討	脱炭素先行地域の選定に向けた申請を行います。	新

7 二酸化炭素の吸収源対策

施策	事業名	実施イメージ	取組
二酸化炭素吸収源への取組	校舎の木造化	校舎を木造で改築し、建設時に発生する炭素放出量の削減に寄与します。	新
	木造化・木質化による教育	木の循環利用への取組により、森林の適切な整備に資するほか、児童・生徒の健康、環境教育に役立っています。	新
	木材利用の推進	間伐材の有効活用や内部改修時の木質化により、木材の利用を推進します。	新
	国産木材利用の推進	森林環境譲与税を学校改築事業における国産木材の利用促進に活用します。	新

8. えどがわエコセンターによる区民・事業者のみなさんとの取組

えどがわエコセンターは、地球環境への負荷を減らしながら、活力のある地域社会を創造することを目的として、2004（平成16）年に設立されたNPO法人です。区民・事業者・行政や教育機関等が連携・協働して、地球温暖化防止活動から資源循環型社会づくり、自然環境保全等あらゆる環境課題に取り組んでいます。

今日の環境問題の多くは、私たち自身のライフスタイルの見直し抜きには解決しません。えどがわエコセンターでは、「日本一のエコタウン」の実現を目指し、区と連携して「もったいない運動えどがわ」の推進をはじめとした、身近な省エネ・省資源・ごみ減量活動などに取り組んでいます。その他、みどりのカーテンの普及や各種講習会・講座の開催など、年間を通じて多くの事業を展開し、気軽に誰もが環境活動に参加できるよう呼びかけています。

また、2015（平成27）年には国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。グローバルな視点を持って環境活動を進めていくため、SDGsを視野に入れた事業の実施を推進しています。

さらに、ラムサール条約に登録された葛西臨海地域の利用促進に向けた取組も進めています。

「日本一のエコタウン」を目指すためには、えどがわエコセンターが核となり区民、地域、学校、事業者等と連携し様々な取組を拡大していくことが大切です。これからも持続可能な地域社会を目指し、次世代に引き継ぐことのできる環境づくりに向け取組を拡げていきます。



えどがわエコセンターの取組事例

地球温暖化防止

化石燃料中心のエネルギー資源から、未来につながるエネルギーのあり方を模索するとともに、地球に負荷をかけない暮らしを行っていきます。

◎エコカンパニーえどがわ

もったいない運動の事業所版です。区内事業者が、自主的に環境への負荷を低減するための環境取組制度です。



◎「みどりのカーテン」の普及

窓の外に作ることで直射日光を遮り、室温を下げ、エアコンの使用を抑えることができます。



循環型社会づくり

「もったいない」の心で、3R<<リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再利用）>>の取組を行っていきます。

◎フードドライブ

家庭で余っている未利用食品を持ち寄り、フードバンクへ提供する活動です。集まった食品はフードバンクを通じて福祉団体や施設、食料支援を必要としている方々に提供されます。



◎生ごみ堆肥づくり講習会

家庭から出る生ごみを微生物の力で良質な堆肥にする講習会を実施しています。



自然環境保全

持続可能な地域社会を目指し、地域や地球規模で自然環境を守っていく取組を進めていきます。

◎ラムサール条約に関する取組

ラムサール条約登録湿地である葛西海浜公園三枚洲の観察会を行い、葛西沖の自然について啓発を行っています。



◎東なぎさクリーン作戦

普段は立ち入り禁止区域の葛西海浜公園「東なぎさ」に船で渡り、漂着ごみの清掃を行います。年2回実施しています。



環境教育・人材育成

地球環境を次世代へ引き継ぐための環境教育、エコタウンえどがわを推進するための「ひと」づくりと「仲間」づくりを進めます。

◎グリーンプラン推進校

えどがわエコセンターと幼稚園・小中学校が協働し、環境学習を推進するモデル校です。毎年10校（園）程度の参加があります。



◎人材育成「エコアクション講座」

地域やエコセンターで活動するための知識やノウハウを基礎から段階的に学べる講座を実施しています。

